ISEKI

ミニ耕うん機

KCR

取扱説明書

KCR659

ご注意

◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。

◆記載内容を十分理解してから、耕うん機の取扱いを開始してください。

◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるよう耕うん機の近くに保管してください。

井関農機株式会社

耕うん機重要ポイント

1．耕うん機や作業機を点検・調整するときは、
必ずエンジンを止めてから行います。

2．後進をするときは、
スピードを下げ、背後の障害物に注意します。

3．ほ場への出入りや、車への積み・降ろし、移動のときは、
必ずロータリの回転を止めます。

4．ほ場への出入りや、車への積み・降ろしは、
上りは前進、下りは後進で行います。

5．作業や移動をするときは、
急発進・急旋回をしません。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、これ以外にも、本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

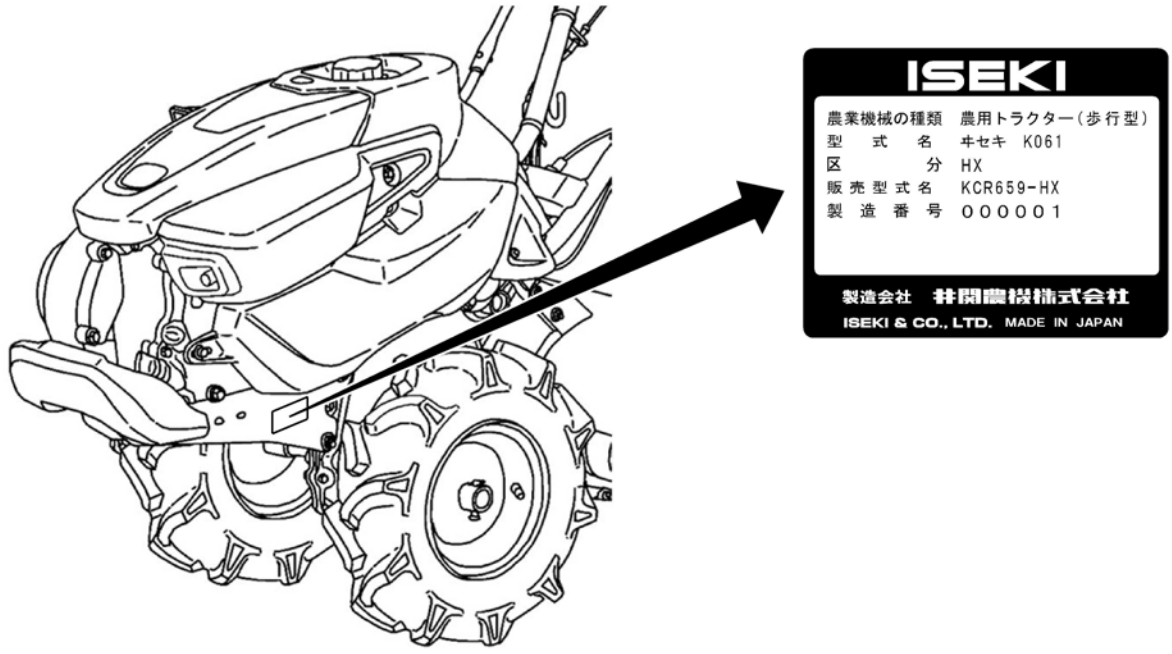
重要なお知らせ

- このたびは、ヰセキ耕うん機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 【本商品の使用目的について】
  本商品は、農業機械ですので、農作業以外には使用しないでください。
  本商品は、畑の耕うん・うね立てなどの作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 井関農機株式会社（以下当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、ヰセキ耕うん機（以下耕うん機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この耕うん機の取り扱い上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や耕うん機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、耕うん機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および耕うん機本体に表示されている事項に限らず、安全対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 耕うん機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取扱、整備いかんによることも、また看過できません。
- この耕うん機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この耕うん機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の耕うん機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本耕うん機を譲渡又は貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を耕うん機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は耕うん機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本耕うん機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、耕うん機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の耕うん機について併記しています。
お買いあげいただいた耕うん機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■ 銘板の位置



販売型式名 ＫＣＲ６５９－ＨＸ の例

■ 区分記号と装備内容

区分記号	装備内容
HX	一軸正逆転ロータリ うね立プレート
S	ロータリ変速正逆転
D	爪軸分割型
U	開閉式ロータリカバー
UH	開閉式ロータリカバー 正逆兼用爪
B	大径タイヤ

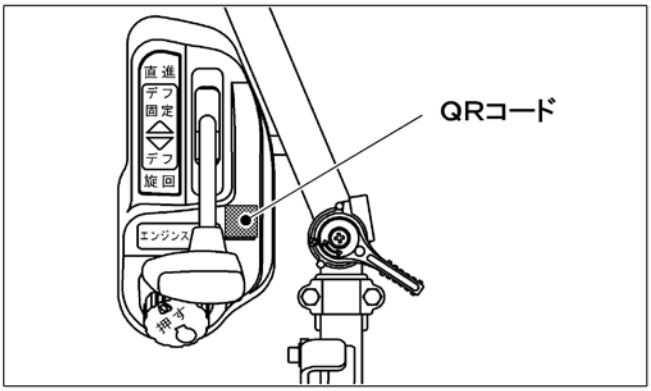
■ QRコードについて

ＱＲコードにより、機械の操作方法やメンテナンスのしかたを動画で見ることができます。

お持ちのスマートフォンや携帯電話などで、下記ＱＲコードを読み取ってご利用ください。

（ご利用するために要する通信費は、お客様ご自身のご負担となります。）

ＱＲコードは機械本体にも貼り付けています。
（エンジンスイッチの右横上）（下図参照）



安全にかかわる表示について

本耕うん機を安全にお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。
また、耕うん機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。
取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の 3 種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例) (爆発注意)
🚫	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例) (火気厳禁)
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例) (メガネ着用)

目　次

重要なお知らせ ····· i
型式と装備内容について ····· ii
安全にかかわる表示について ····· iii
目　次 ····· iv

1. 安全のポイント

1.1　安全上のご注意 ····· 1
1.1.1　運転者の条件 ····· 1
1.1.2　作業をする前に ····· 1
1.1.3　作業中は ····· 3
1.1.4　トラックへの積み・降ろし ····· 5
1.1.5　点検・整備 ····· 7
1.1.6　保管時は ····· 9
1.2　警告ラベルについて ····· 10
1.3　警告ラベル貼付箇所 ····· 10

2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証 ····· 13
2.2　サービスネット ····· 13
2.3　銘板の位置 ····· 13
2.4　補修用部品の供給年限について · 13

3. 各部の名称とはたらき

3.1　各部の名称 ····· 14
3.1.1　全 体 ····· 14
3.1.2　レバー関係 ····· 14
3.1.3　ロータリ関係 ····· 15
3.1.4　メンテナンス関係 ····· 15
3.2　始動装置と取り扱い ····· 15
3.2.1　エンジンスイッチ ····· 15
3.2.2　燃料コック ····· 16
3.2.3　チョークレバー ····· 16
3.2.4　アクセルレバー ····· 16
3.2.5　スタータノブ ····· 16
3.3　運転装置と取り扱い ····· 17
3.3.1　ハンドル ····· 17
3.3.2　主クラッチレバー ····· 17
3.3.3　変速レバー ····· 17
3.3.4　デフ切替レバー（兼ロータリクラッチレバー） ·· 18
3.3.5　ロータリクラッチ連動切替アーム · 19
3.3.6　駐車レバー(駐車ブレーキ) ····· 20
3.4　その他の装置とはたらき ····· 21
3.4.1　抵抗棒 ····· 21
3.4.2　うね立てプレート(ＨＸ型) ····· 21
3.4.3　尾 輪 ····· 22
3.4.4　残耕処理板（ＳＤＵＢ・ＳＤＵ・ＳＤＵＨ型) · 22
3.4.5　燃料残量確認窓 ····· 22

4. 作業前点検

4.1　点検項目 ····· 23
4.1.1　エンジンを始動する前に ····· 23
4.1.2　エンジンを始動して ····· 24
4.2　各部の給油と検油 ····· 24
4.2.1　エンジンオイルの給油と検油 ···· 24
4.2.2　ミッションオイルの給油と検油 ·· 25
4.2.3　エアクリーナオイルの給油と検油 · 25
4.2.4　燃料給油 ····· 26

5. 運転のしかた

5.1　エンジンの始動と停止 ····· 27
5.1.1　始動のしかた ····· 27
5.1.2　停止のしかた ····· 28
5.2　発進と運転のしかた ····· 29
5.2.1　発進と変速のしかた ····· 29
5.2.2　旋回のしかた ····· 30
5.2.3　停止のしかた ····· 30

6. 作業のしかた

6.1 作業に関する注意 ……31
6.2 作業に適した調節のしかた ……32
6.2.1 ハンドル調節のしかた …… 32
6.2.2 抵抗棒の調節のしかた …… 32
6.2.3 尾輪の調節のしかた …… 33
6.2.4 車輪幅の調節のしかた …… 34
6.3 耕うん作業のしかた ……35
6.3.1 耕うん作業のしかた …… 35
6.3.2 うね立て作業のしかた …… 36
6.3.3 溝幅調節のしかた(HX型) …… 37
6.3.4 ロータリアップストップのしかた・38

7. 点検整備

7.1 毎日の手入れ ……39
7.2 長時間使用しない場合の手入れ・39
7.3 定期点検・整備箇所一覧表 ……40
7.4 各部の注油 ……41
7.4.1 主クラッチケーブル、レバー支点・41
7.4.2 デフ切替ケーブル、レバー支点・・41
7.4.3 ハンドル上下ケーブル、レバー支点 …… 41
7.4.4 駐車 (ブレーキ) ケーブル、レバー支点 …… 41
7.4.5 テンションアーム支点 …… 41
7.4.6 変速レバー支点 …… 42
7.4.7 駐車(ブレーキ)アーム支点 …… 42
7.5 各部のオイルの点検・交換 ……42
7.5.1 エンジンオイルの点検・交換 …・42
7.5.2 ミッションオイルの点検・交換・・43
7.6 エアクリーナの清掃 ……43
7.7 燃料の抜きかた ……44
7.7.1 燃料の抜きかた …… 44
7.7.2 燃料フィルタの清掃 …… 44
7.8 点火プラグの整備 ……45
7.9 タイヤの空気圧 ……45
7.10 耕うん爪の取り付けかた ……46
7.11 残耕処理板の交換(SDUB・SDU・SDUH型) ……48

8. 格納時の手入れ

8.1 日常の格納 ……49
8.2 長期の格納 ……49
8.3 長期格納後の使用 ……49

9. 不調時の処置

9.1 不調時の処置 ……50

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表 ……52
10.2 標準付属品 ……52
10.3 主要諸元表 ……53
10.4 主な消耗部品一覧表 ……55

1. 安全のポイント

本耕うん機を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、安全に活用してください。記号の説明については「安全にかかわる表示について」の説明を参照してください。

1.1.1 運転者の条件

⚠ 警 告

こんなときは、運転をしないでください。

- **過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき**
- **18才未満の人**
- **妊娠しているとき**
- **酒を飲んだとき**
- **本書及びラベルの内容が理解できない人**
- **視力不足等で表示内容が読めない人**

※ 誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。

作業に適した服装を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、保護メガネ、手袋等作業に適した防護具をつけ、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、滑って転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1.1.2 作業をする前に

⚠ 危 険

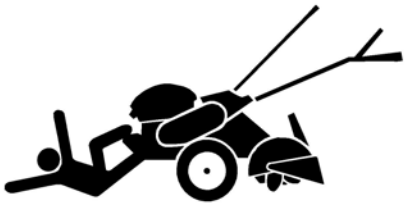
エンジン停止後、エンジンが熱いうちは、燃料補給しないでください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。

⚠ 警告

機械の停止操作(主クラッチを切る、緊急停止スイッチを押す)を十分行って、すばやく機械を停止できるようにしてから作業を行ってください。

※　守らないと、とっさのときに機械が止まらず、死傷事故を引き起こすおそれがあります。



燃料ホースの破損や、燃料もれがないか、作業前に必ず点検してください。

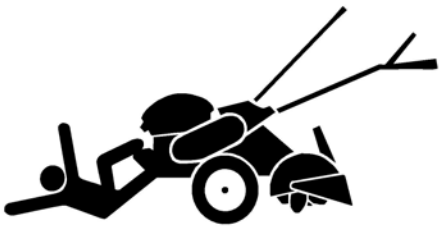
※　守らないと、火災の原因になることがあります。

無理、無駄のないゆとりある作業計画をたててください。

※　守らないと、あせりなどから傷害事故を引き起こすことがあります。

エンジンを始動するときは、必ず主クラッチレバーから手を放し、変速レバーを「中立」位置にし、周囲の安全を確認してから行ってください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



誤って燃料を飲んだり、目に入った場合は、速やかに専門医に相談してください。

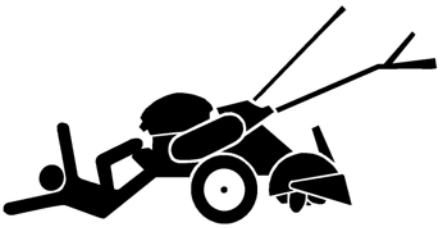
※　守らないと、身体を害するおそれがあります。

⚠ 注意

作業をする前に、この取扱説明書を参考にして必要な点検は必ず行ってください。

特にクラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、性能が出せないばかりか、停止したいときにクラッチが切れなくなることがあります。

※　守らないと、傷害事故の原因になります。



エンジンを始動する前に安全カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、重大な傷害事故を起こします。

⚠ 注 意

屋内で運転するときは、窓や戸を開けて、十分に換気をしてください。

閉め切った屋内などでは運転をしないでください。

※　守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、傷害事故の原因になります。

発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。

特に子供に注意してください。

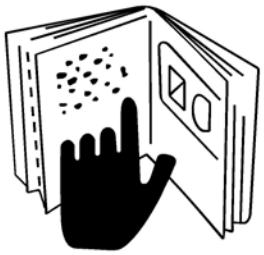
※　守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

移動中は、走るようなスピードを出したり、急発進、急停止、急旋回をしないでください。

※　守らないと、転倒して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

機械を貸すときは、取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※　守らないと、借りた人が機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



エンジンを始動する前にスタータノブが軽く引けることを確認してください。

※　守らないと、肩等を痛めるおそれがあります。

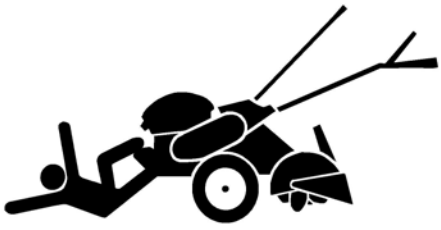
1.1.3　作業中は

気象条件などに注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警 告

作業中は、両手でしっかりとハンドルを握り、すぐに主クラッチが切れる位置で運転してください。

※　守らないと、機体が思わぬ方向に動いたり、作業部に巻き込まれたりして死傷事故を引き起こすおそれがあります。



土が硬い所では、耕深調節を浅くしてロータリをゆっくり下げてください。

回転する爪の勢いで、急に機体が前方に飛びだすおそれがあります。

※　守らないと、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠ 警告

あぜを横断するときは、必ずデフ切替レバーを「デフ固定／直進」にしてください。

※　守らないと、急にハンドルをとられ、転倒することがあります。

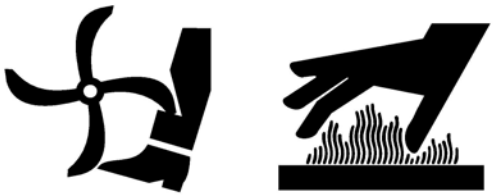
あぜを横断するときは、いったん停止してエンジンの回転を低くして、あぜと直角にゆっくり走行してください。

また、あぜの高さが高いところでの、ほ場の出入りでは必ずアユミ板を使用してください。
（☞ 6，31ページ）

※　守らないと、スリップや転倒をし、傷害事故を起こすことがあります。

耕うん爪等の回転部や作業部、マフラ・エンジン等の高温部など、危険な箇所には体や服を触れないでください。

※　守らないと、やけどや傷害事故を引き起こすおそれがあります。



旋回する時は特に足もとに注意して、耕うん部に巻き込まれないようにしてください。

※　守らないと、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。

傾斜地で作業する場合、転倒やスリップをしないようバランスに十分注意してください。

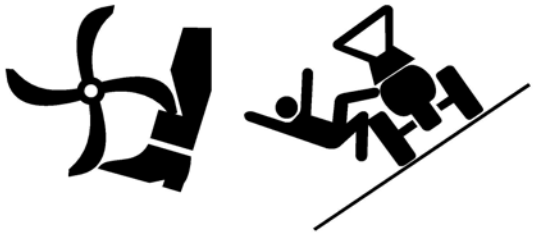
※　守らないと、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。

本耕うん機は作業灯を備えていませんので、夜間の作業は絶対に行わないでください。

※　守らないと、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。

後進をするときは、後方や足もとに十分注意し、エンジンの回転を低くしてください。

※　守らないと、機体の姿勢やバランスが急に変わり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



タイヤが石等に乗りあげたり、溝に落ちたりするとバランスが崩れ危険です。作業前に十分確認し、作業に支障のあるものは取り除いてから作業を行ってください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ほ場へ入るとき、下りの急傾斜の場合は、後進で入ってください。

※　守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

始動時や運転中に点火プラグやプラグキャップおよび高圧コードに触れないでください。

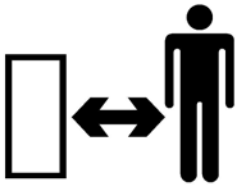
※　守らないと、感電のおそれがあります。

⚠ 注 意

作業中は周りの人（特に子供）に注意してください。

作業を始めるときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、声をかけて合図してから行ってください。作業中は、作業者以外の人を機械に近づけないでください。

※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



機械を離れるときは、「平らな場所」を選び、エンジンを止めておいてください。やむを得ず傾斜地に置くときは、必ず駐車レバーを「入」にし、タイヤに「車止め」をして、機械が動いたり、倒れたりしないのを確認してから離れてください。

※　守らないと、機械が自然に動きだし、傷害事故の原因となります。

1.1.4　トラックへの積み・降ろし

⚠ 警 告

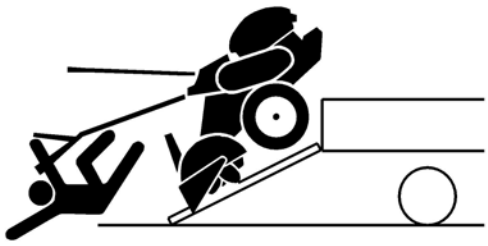
積み・降ろしは、平地で安定した場所を選んでください。

積み込むトラックや自動車は、エンジンを止め、変速を「１速」・「R」または「P」にし、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

※　守らないと、積み・降ろし時、トラック等が動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。

機械を積むときは「前進１」、降ろすときは「後進」でエンジン回転を下げてゆっくり行い、デフ切替レバーは必ず「デフ固定／直進」の位置にしてください。

※　守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。



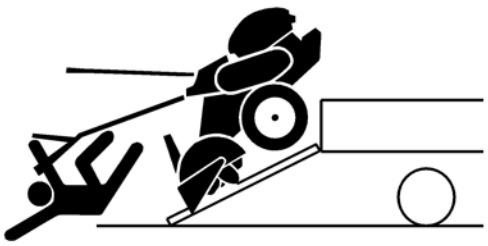
⚠ 警告

基準に合った強度のある、すべらないアユミ板を使用し、アユミ板のフックをトラックの荷台に外れないように確実にかけてください。

※ 守らないと、アユミ板が外れたりして転倒し、傷害事故を起こすことがあります。

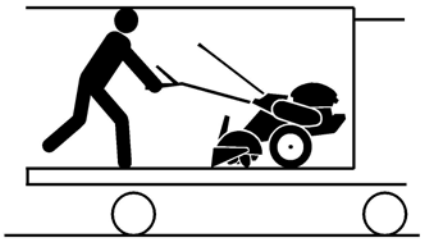
〈アユミ板の基準〉

- 長さ　車の荷台高さの４倍以上。
- 幅　約 30 cm 以上。
- 強度　300 kg 以上。(片側１枚)
- 数量　２枚使用。
- すべらないよう処理してあること。



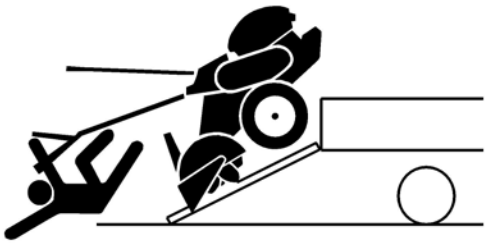
運搬に使用するトラック等で荷台に天井があるものを使用するときは、天井をよく確認しながら積み・降ろしてください。
また、荷台上ではエンジンをかけず、手で押し引きして動かしてください。

※ 守らないと、天井にはさまれて傷害事故を引き起こすことがあります。



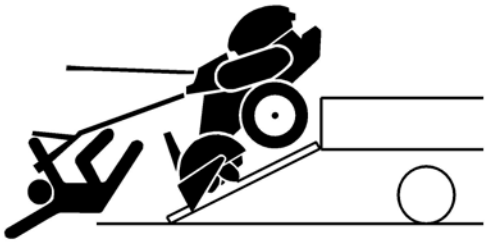
積み・降ろしのときは、変速レバーをHX型の場合は「耕うん」、SDUB・SDU・SDUH型の場合は「耕うん」・「うね立」位置にしないでください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こすおそれがあります。



積み・降ろし中にアユミ板の上で主クラッチレバーやデフ切替レバー、変速レバーおよびハンドル上下レバーの操作は絶対しないでください。

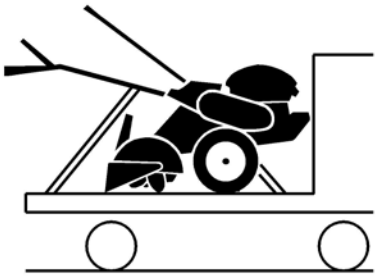
※ 守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。



トラック等に積んで運搬するときは、タイヤが動かないように駐車レバーを「入」にし、機械本体が転倒しないように、固定用フックにロープ等を掛け、必ず荷台に固定してください。

積み込み後、燃料コックは「停止」にしておいてください。

※ 守らないと、転落事故を起こすことがあります。

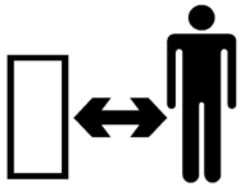


運搬中は急発進・急旋回・急停止をしないでください。

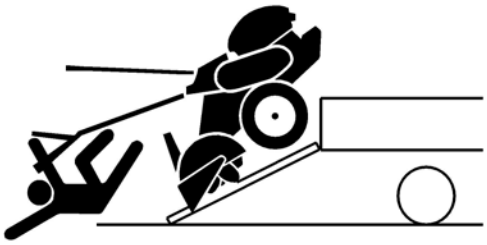
※ 守らないと、転落事故を起こすことがあります。

⚠ 注意

周囲の状況を十分確認して行ってください。
誘導者を付ける場合は、機械の近辺には絶対に立たせないでください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



アユミ板から荷台に移るとき、また荷台からアユミ板に移るとき、急に機体の角度が変わりますので、十分注意してください。
※　守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.5　点検・整備

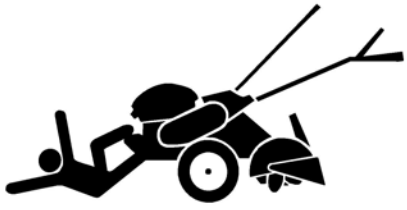
⚠ 危険

作業中に機械から抜き取った、引火のおそれのある燃料等は、火気厳禁とした所定の格納庫か、危険のない場所に置いてください。
※　守らないと、火災を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

点検・整備は必ずエンジンを止め、マフラ等の高温部分が完全に冷えてから行ってください。
※　守らないと、やけどや傷害事故を引き起こすおそれがあります。

耕うん機のご使用の前後に、日常の点検・整備を行うほか、定期的に点検整備を行って、常に耕うん機および作業機を安全な状態に保つようにしてください。
※　守らないと、傷害事故の原因になります。



⚠ 警告

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

※　守らないと、傷害事故の原因になります。

作業機の装着が終わったときは、指定の場所に確実に装着されているか、ピンに抜け止めピンがしてあるかどうか確認してください。

※　守らないと、作業機が外れたりして重大な傷害事故の原因となります。

マフラやエンジン周辺部のワラくず、ゴミ等は、取り除いてください。

※　守らないと、火災の原因となります。

点検・整備するときは、地面が平たんで硬く、明るく広い場所で行ってください。

※　守らないと、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。

※　守らないと、整備中の傷害事故や、整備不良による思わぬ事故を引き起こすことがあります。

⚠ 注意

点検・整備するときは、常に機体のバランスに気をつけてください。

※　守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備するときは、可動するロータリカバーを固定してください。

※　守らないと、ケガをするおそれがあります。

点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。

⚠ 注意

機械から廃液を抜くときは、容器で受けてください。

廃油、燃料、ゴム類その他の有害物を廃棄、焼却するときは、「お買いあげ先」または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。

※　廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

1.1.6　保管時は

⚠ 警告

燃料ホースの破損や、燃料もれがないか、保管前に必ず点検してください。

※　守らないと、火災の原因になることがあります。

保管時は機体を水平にしてください。

※　守らないと、燃料が漏れ、火災の原因になることがあります。

シートカバーなどを機械にかけるときは、高温部分が完全に冷えてから行ってください。また、マフラやエンジン周辺部のワラくず、ゴミ等は、取り除いてください。

※　守らないと、火災の原因になることがあります。

1.2　警告ラベルについて

⑴　この耕うん機には、安全に作業していただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。

⑵　警告ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。

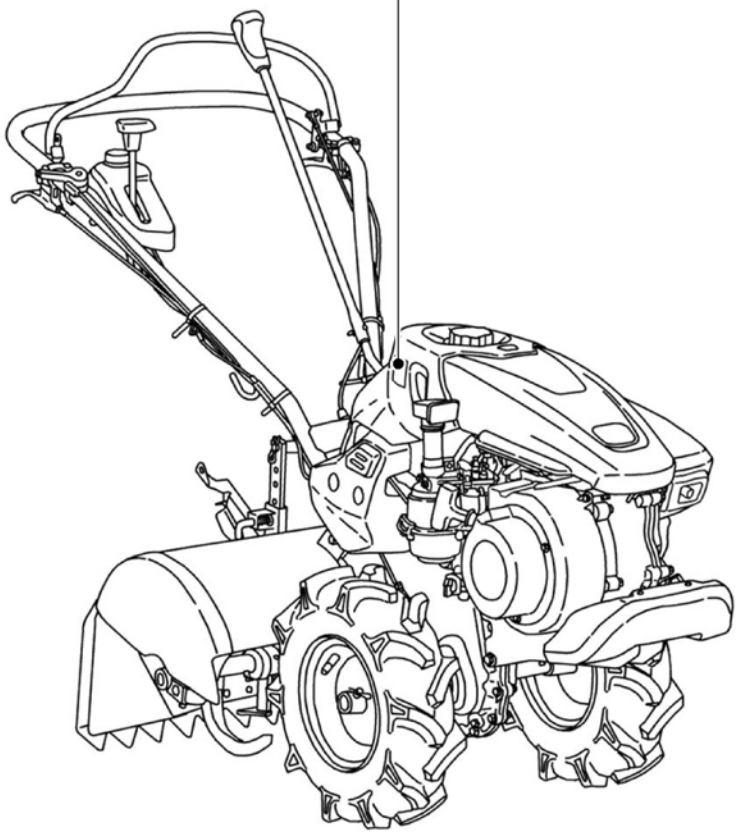
⑶　汚れた場合は、きれいに拭き取り、いつでも読めるようにしてください。

⑷　警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルも「お買いあげ先」へ注文してください。

⑸　高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

1.3　警告ラベル貼付箇所

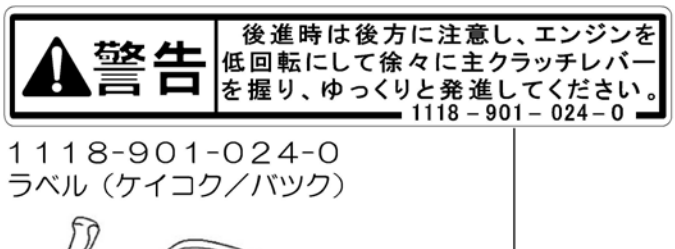
⚠ 危険



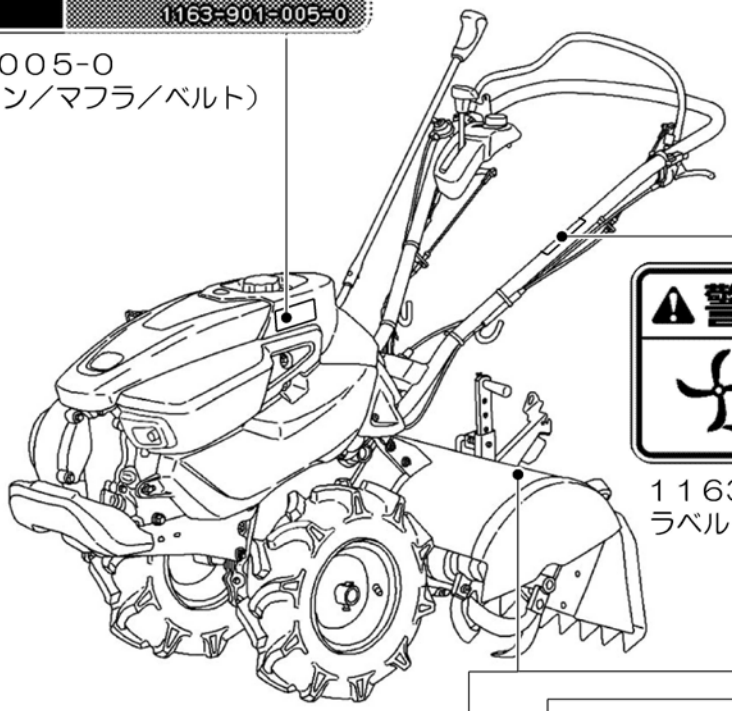
1162-902-003-0
ラベル（キケン／カキゲンキン）

⚠ 警告

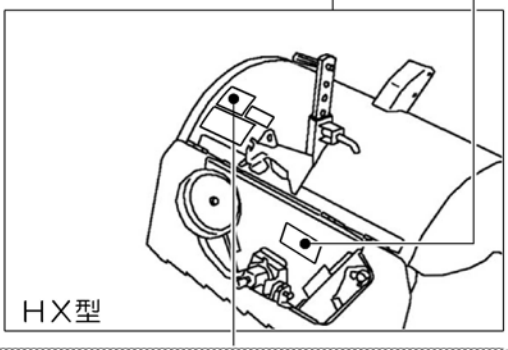
1163-901-005-0
ラベル（コーション／マフラ／ベルト）

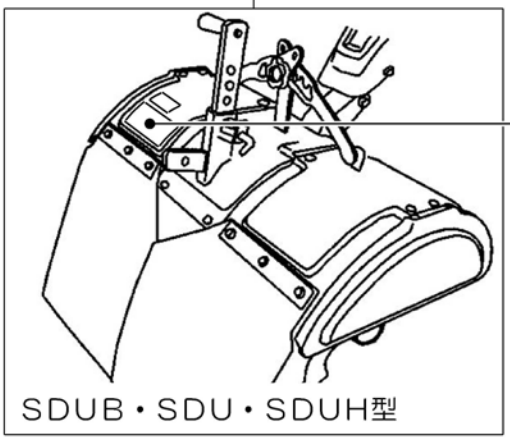


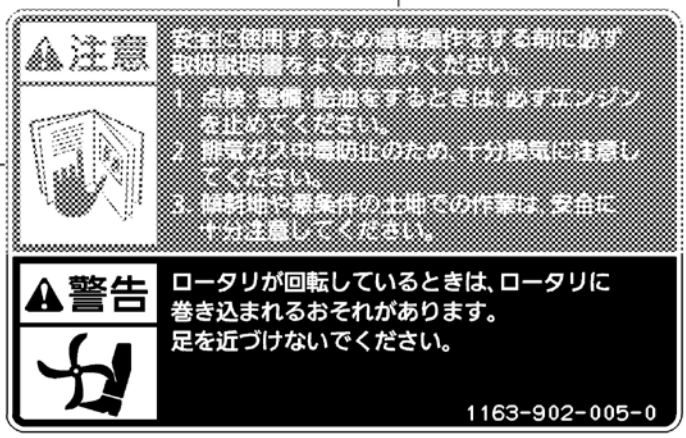
1118-901-024-0
ラベル（ケイコク／バック）



1163-902-007-0
ラベル（ケイコク／ガイド）



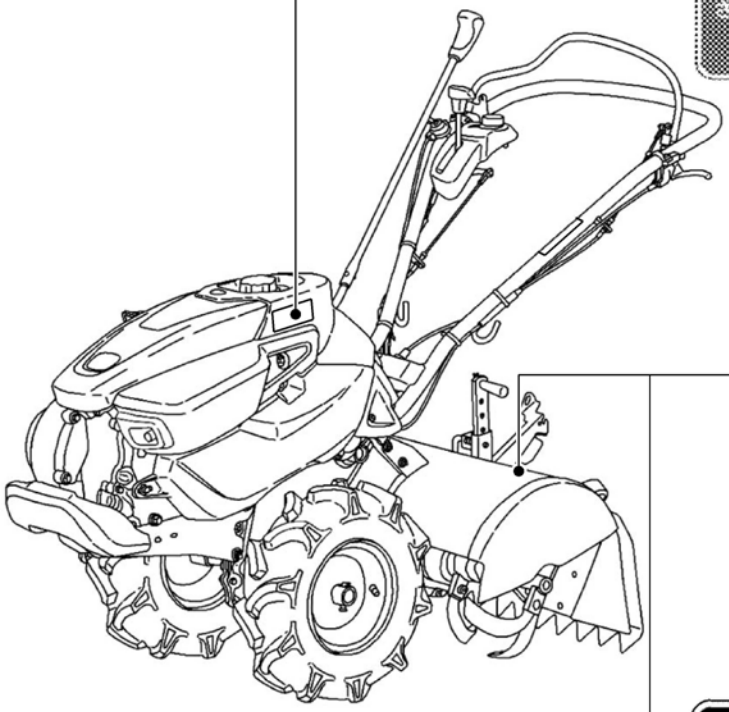


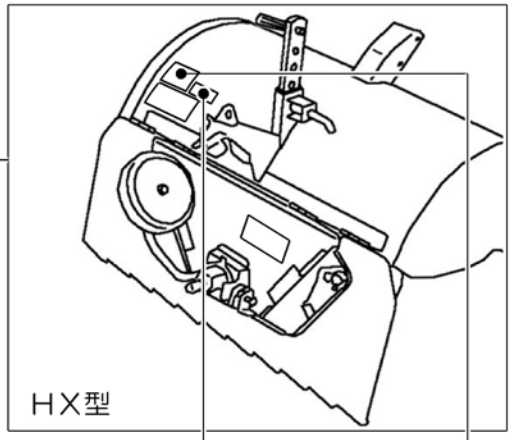


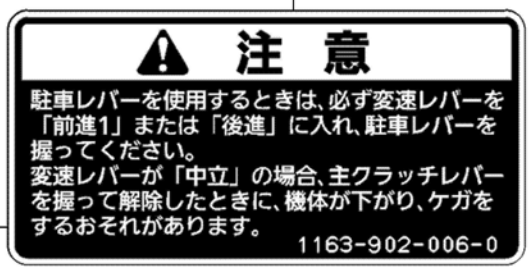
1163-902-005-0
ラベル（コーション／ソウサ／ロータリ）

⚠ 注意

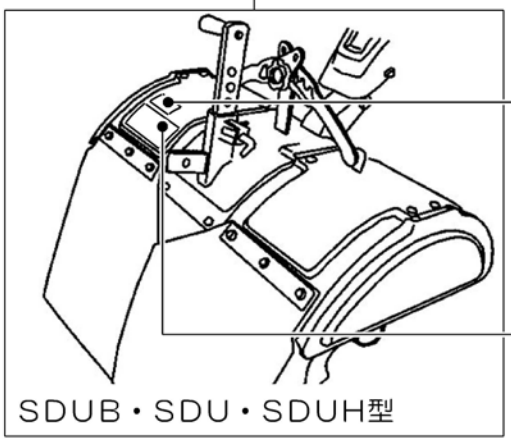
1163-901-005-0
ラベル（コーション／マフラ／ベルト）

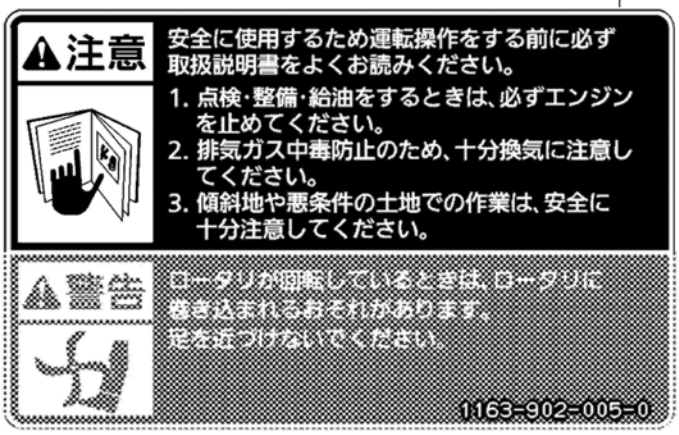






1163-902-006-0
ラベル（チュウイ／ブレーキ）





1163-902-005-0
ラベル（コーション／ソウサ／ロータリ）

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

この商品には、『ヰセキ保証書』が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

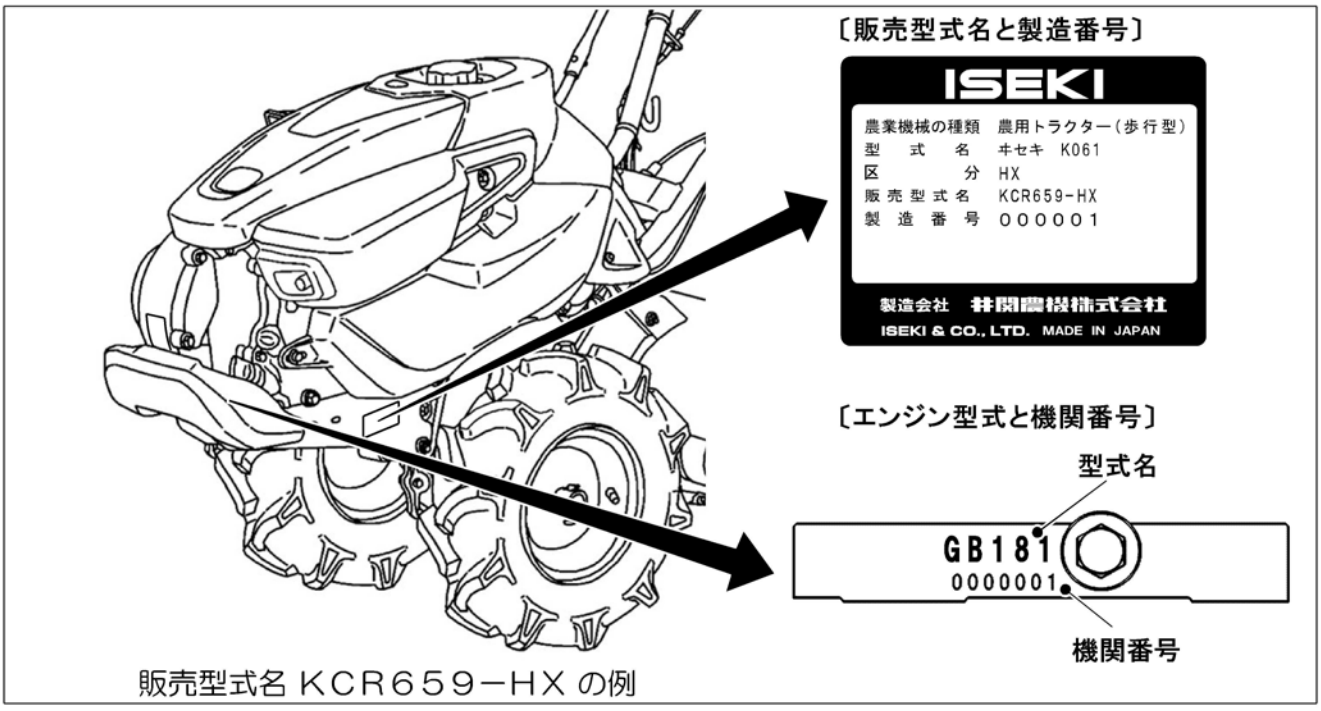
2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。その際

(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号

を併せてご連絡ください。

2.3 銘板の位置



販売型式名 ＫＣＲ６５９－ＨＸ の例

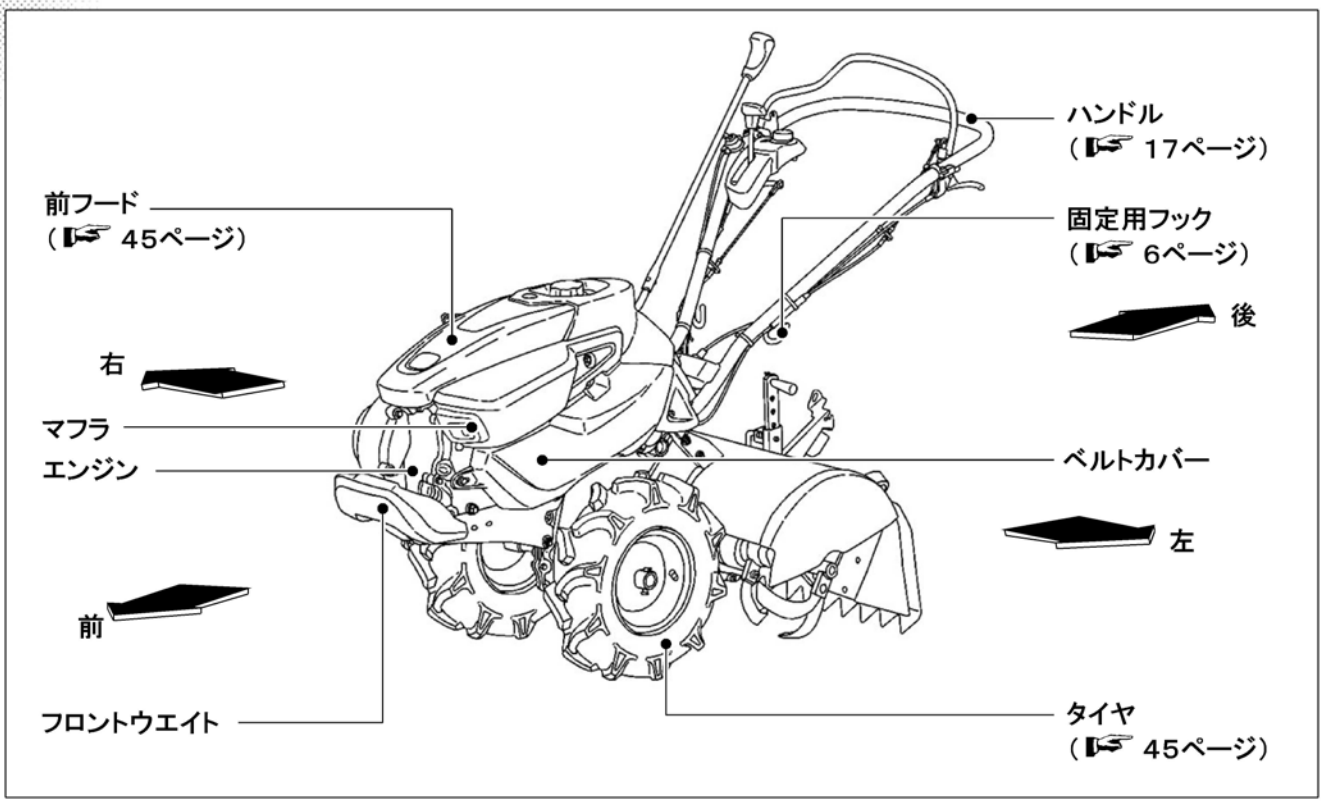
2.4 補修用部品の供給年限について

- この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後 9 年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

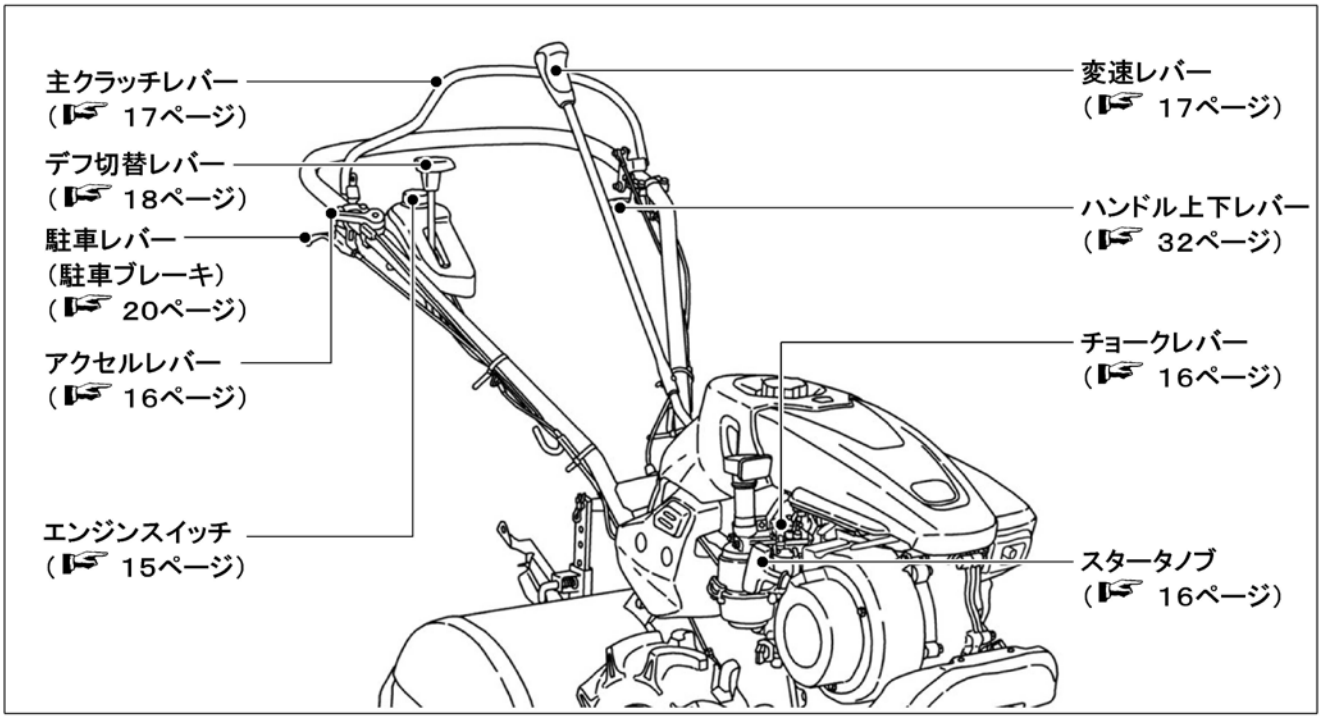
3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

3.1.1 全体

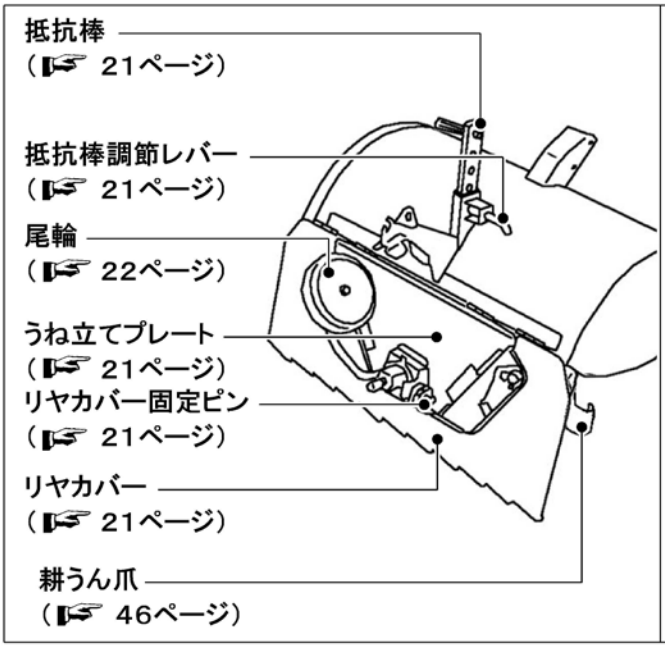


3.1.2 レバー関係

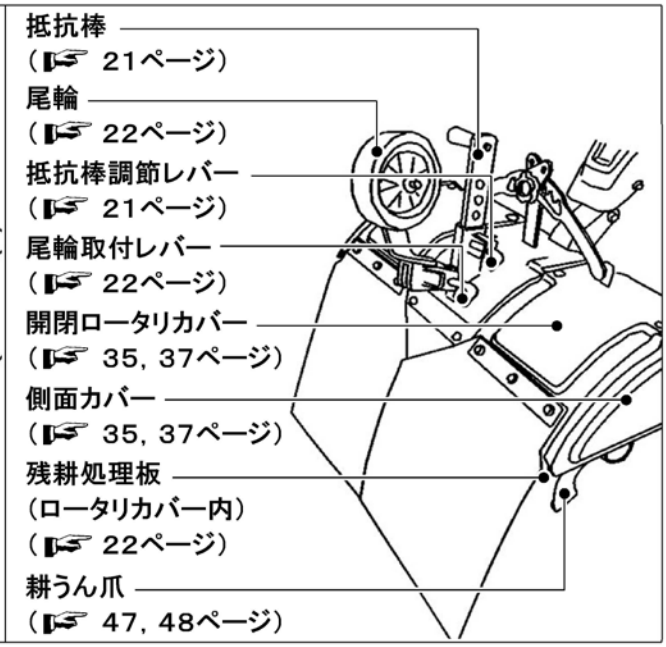


3.1.3　ロータリ関係

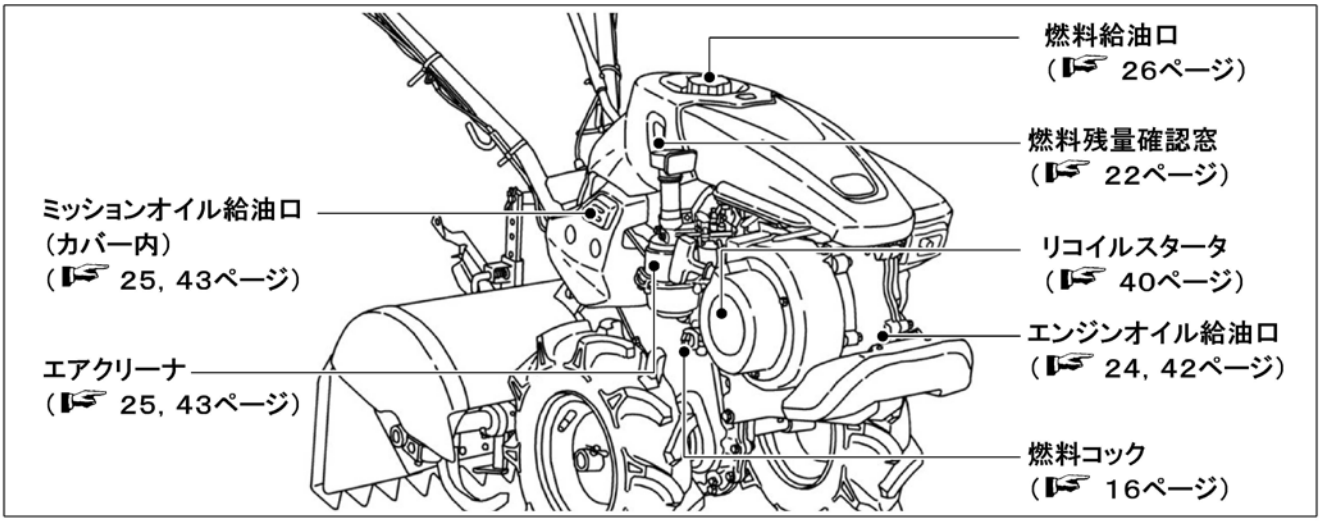
■ HX型



■ SDUB・SDU・SDUH型



3.1.4　メンテナンス関係



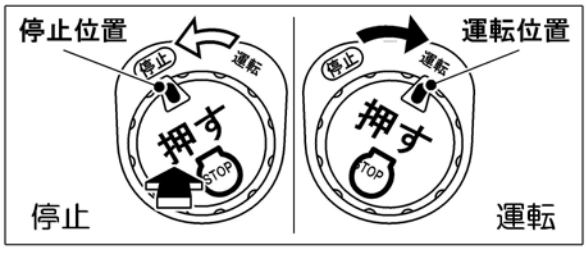
3.2　始動装置と取り扱い

3.2.1　エンジンスイッチ

エンジンを「停止」と「運転」の状態に切り替えるスイッチです。

「停止」…スイッチを押すと自動的に停止側を向きエンジンが停止状態になる。

「運転」…スイッチを運転側に回すとエンジンが運転できる状態になる。



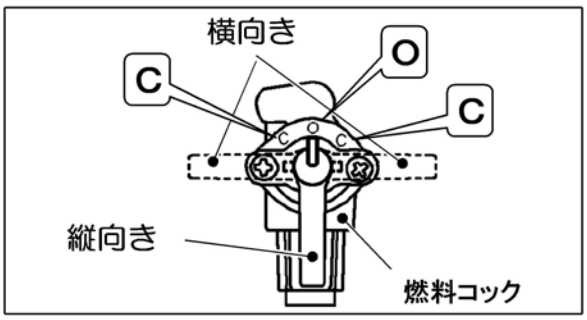
3.2.2　燃料コック

燃料タンクの燃料を流したり、止めたりするコックです。

燃料コックのレバー位置

運転位置「O」（レバー縦向き）
……燃料が流れる。

停止位置「C」（レバー横向き）
……燃料を止める。



3.2.3　チョークレバー

注 意

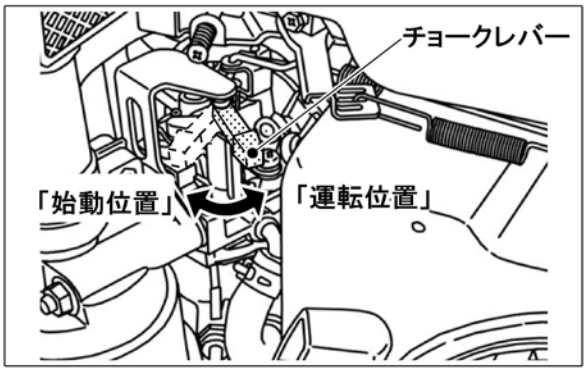
始動後はエンジンの調子を見ながら、徐々に運転位置まで戻してください。
※　始動位置のままだと、エンジンが不調になります。

エンジンを始動しやすくするためのレバーです。
エンジンの始動時に操作してください。

始動位置……レバーを始動位置に回す。
運転位置……レバーを運転位置に回す。

補 足

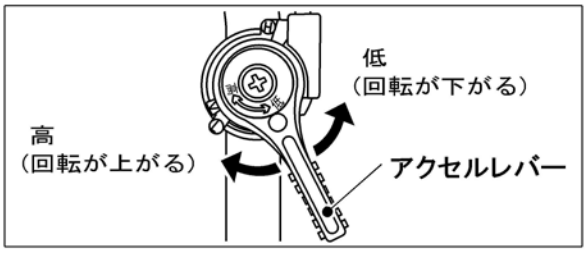
- エンジンが暖まっているときは、チョークレバーを始動位置にしないでください。守らないとプラグがかぶり、始動しなくなります。



3.2.4　アクセルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。

時計回りに回す……エンジンの回転が上がる。
反時計回りに回す…エンジンの回転が下がる。

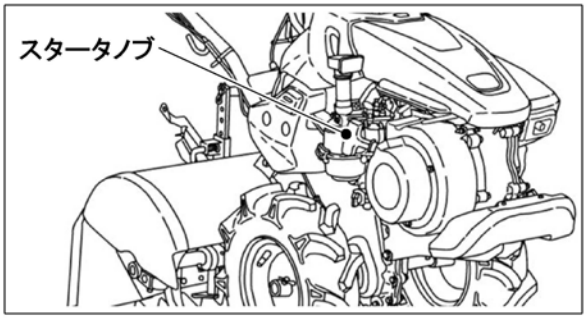


3.2.5　スタータノブ

エンジンを始動するためのノブです。
エンジンを始動するとき、このノブを勢いよく引っ張ります。

補 足

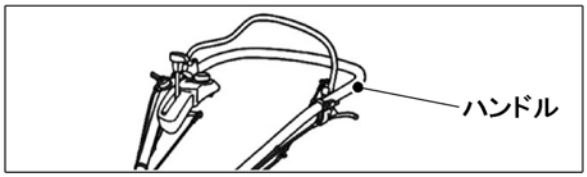
- 事前にスタータノブが引ける限界を確認しておき、限界にならない範囲で引いてください。
- スタータノブは引いたまま手を放さずゆっくりと戻してください。



3.3　運転装置と取り扱い

3.3.1　ハンドル

耕うん機の進行方向を調整するものです。

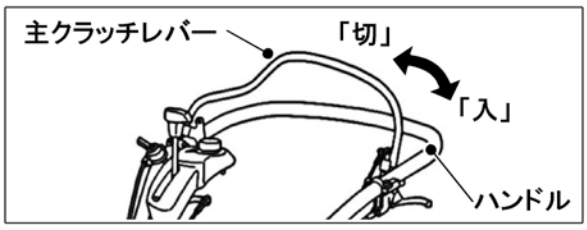


3.3.2　主クラッチレバー

⚠ 警 告

積み・降ろしの途中で、主クラッチレバーを切らないでください。
※　守らないと、転落事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンからの動力伝達を「入」⇔「切」するレバーです。
ハンドルと一緒に握ると「入」となり、放すと「切」になります。



3.3.3　変速レバー

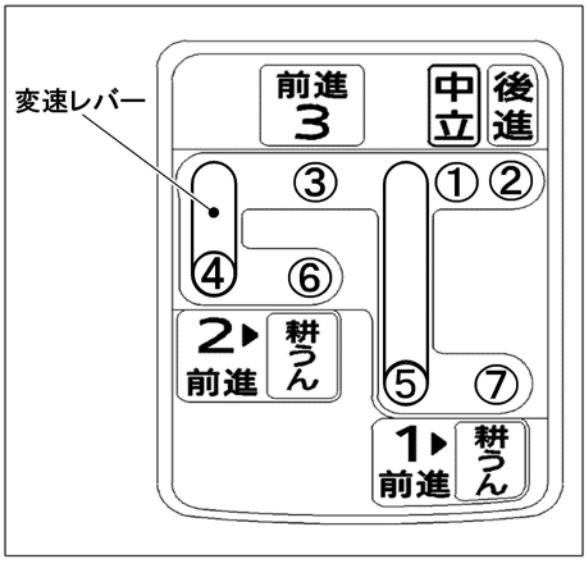
⚠ 警 告

積み・降ろしの途中で、変速レバーを操作しないでください。
※　守らないと、転落事故を引き起こすおそれがあります。

走行車速とロータリ変速を切り替えるレバーです。作業に応じて選択してください。

■ HX型

レバー位置表示		走行方法／耕うん爪の回転
①	中 立	タイヤも耕うん爪も回りません。
②	後 進	後進します。耕うん爪は回りません。
③	前進３	高速で前進します。耕うん爪は回りません。
④	前進２	中速で前進します。耕うん爪は回りません。
⑤	前進１	低速で前進します。耕うん爪は回りません。
⑥	耕うん	中速で前進し、耕うん爪が回転します。土を荒く耕します。
⑦	耕うん	低速で前進し、耕うん爪が回転します。土を細かく耕します。

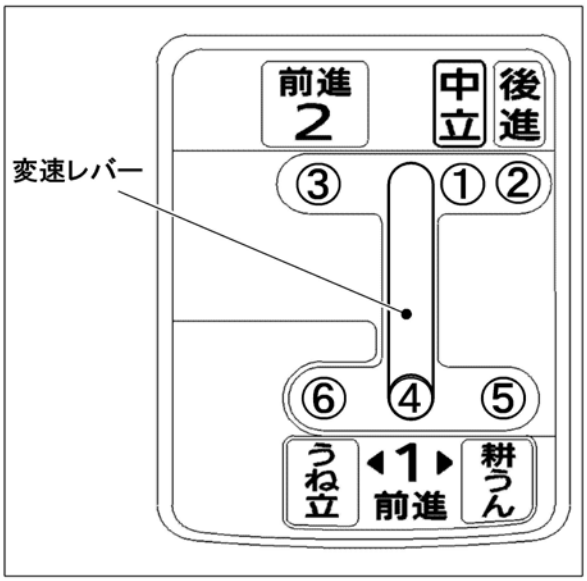


■ SDUB型

レバー位置表示		走行方法／耕うん爪の回転
①	中 立	タイヤも耕うん爪も回りません。
②	後 進	後進します。耕うん爪は回りません。
③	前進３	高速で前進します。耕うん爪は回りません。
④	前進２	中速で前進します。耕うん爪は回りません。
⑤	前進１	低速で前進します。耕うん爪は回りません。
⑥	耕うん	中速で前進し、耕うん爪が正転します。土を荒く耕します。
⑦	耕うん	低速で前進し、耕うん爪が正転します。土を細かく耕します。
⑧	うね立	低速で前進し、耕うん爪が逆転します。

■ SDU･SDUH型

レバー位置表示		走行方法／耕うん爪の回転
①	中 立	タイヤも耕うん爪も回りません。
②	後 進	後進します。耕うん爪は回りません。
③	前進2	高速で前進します。耕うん爪は回りません。
④	前進1	低速で前進します。耕うん爪は回りません。
⑤	耕うん	低速で前進し、耕うん爪が正転します。
⑥	うね立	低速で前進し、耕うん爪が逆転します。



3.3.4　デフ切替レバー（兼ロータリクラッチレバー）

⚠ 警 告

車への積み･降ろしや坂道･傾斜地等での移動では、変速位置を「前進１」または「後進」にし、デフ切替レバーを「デフ固定／直進」にして左右のタイヤを同回転にしてください。

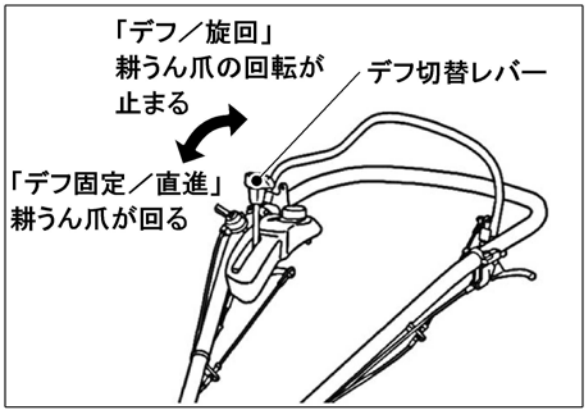
※　守らないと、急にハンドルをとられ、転倒するおそれがあります。

積み･降ろしの途中で、デフ切替レバーを操作しないでください。

※　守らないと、転落事故を引き起こすおそれがあります。

左右のタイヤを同回転にしたり、同回転になるのを解除するレバーです。また、ロータリクラッチの操作を兼ねており、工場出荷状態では連動していますので、操作すると耕うん爪の回転が「入」↔「切」できる状態となっています。

■ ロータリクラッチ連動時（出荷状態）



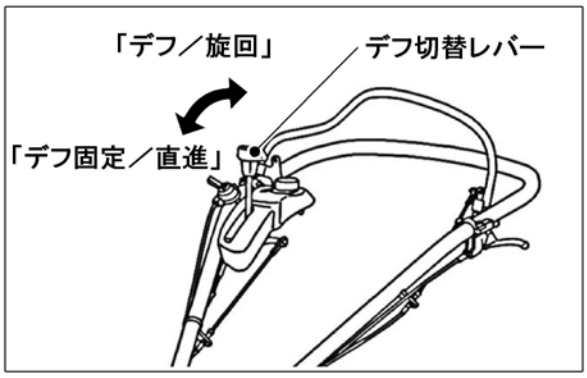
⑴ 耕うん・うね立て作業時は「デフ固定／直進」位置にしてください。ロータリクラッチが「入」となり、耕うん爪が回ります。

⑵ 旋回・移動時は「デフ／旋回」位置にしてください。ロータリクラッチが「切」となり、耕うん爪の回転が止まります。

補 足

- 変速レバーが「前進１」・「前進２」・「前進３」・「後進」位置では、デフ切替レバーを「デフ固定／直進」にしても耕うん爪は回りません。
- 耕うん・うね立て作業中、耕うん爪が土の中にあると、デフ切替レバーを「デフ／旋回」にしても耕うん爪の回転は止まらない場合があります。この場合、耕うん爪が地面から離れると止まります。
(ロータリアップストップ ☞ 38ページ)

■ ロータリクラッチ連動解除時



⑴ 通常は「デフ／旋回」位置で使用してください。

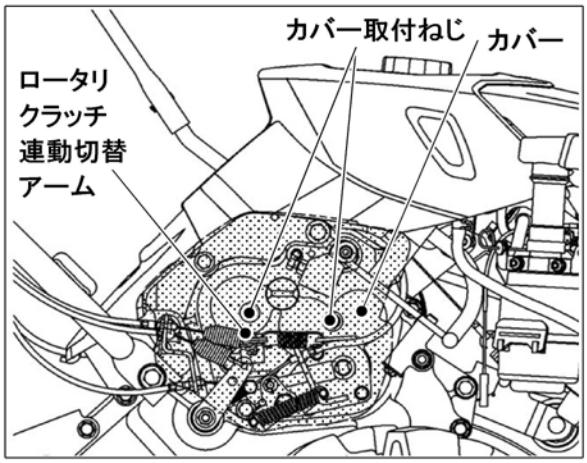
⑵ 耕うん・うね立て作業中、片側の車輪がスリップして直進しにくい場合は、デフ切替レバーを「デフ固定／直進」位置にすると左右の車輪が同じ回転になり直進性が増します。

⑶ 旋回時は、デフ切替レバーを「デフ／旋回」位置にし、ハンドルを横の方へ振ってください。

3.3.5 ロータリクラッチ連動切替アーム

耕うん爪の回転を「入」↔「切」させるロータリクラッチと、デフ切替レバーを連動、または連動解除するためのアームです。

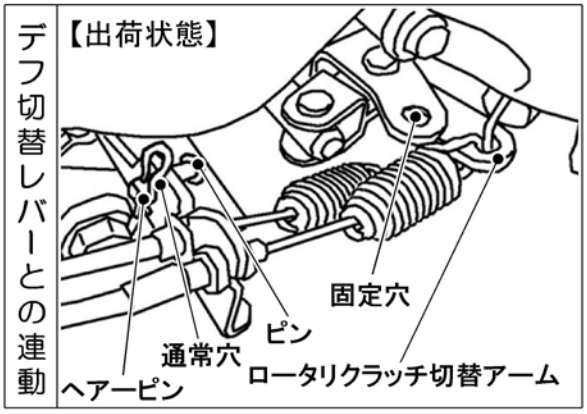
ロータリクラッチ連動切替アームはカバー内にありますので、切り替える際はカバーを外してから行ってください。



■ デフ切替レバーとの連動（出荷状態）

⑴ ピンを固定穴に通さないで、通常穴にピンを差し、ヘアーピンで止めます。

⑵ デフ切替レバーとロータリクラッチが連動し、作業中、旋回のためにデフ切替レバーを「デフ／旋回」位置にすると耕うん爪の回転が止まります。



■ デフ切替レバーとの連動解除

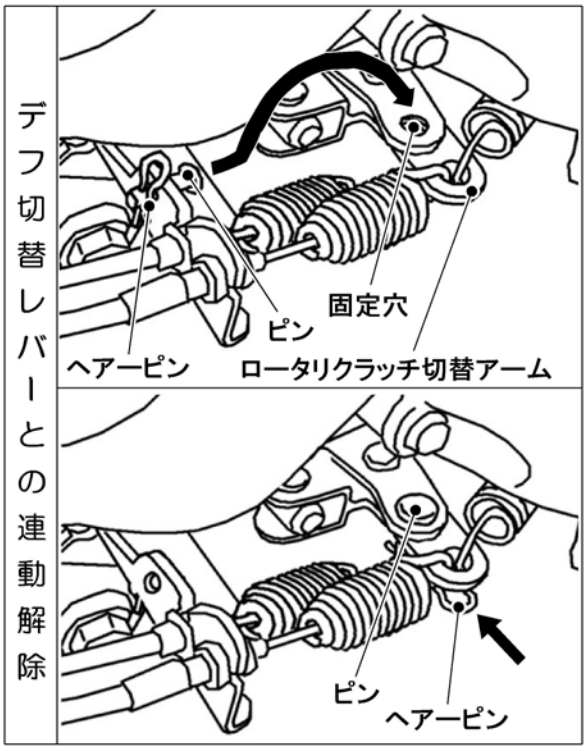
⑴ 「デフ固定／直進」位置にし、ヘアーピンを外し、ピンを抜きます。

⑵ ピンを固定穴に差し、切替アームを固定してヘアーピンで止めます。

⑶ デフ切替レバーとロータリクラッチの連動が解除され、作業中、旋回のためにデフ切替レバーを「デフ／旋回」位置にしても耕うん爪は止まりません。

補 足

- 変速レバーが「前進１」・「前進２」・「前進３」・「後進」位置では、デフ切替レバーを「デフ固定／直進」にしても耕うん爪は回りません。
- ロータリクラッチ切替アームの穴と固定穴が合わないときは、変速レバーを「耕うん」・「うね立」位置に変速し、主クラッチを握って、耕うん爪を駆動させると穴位置が合います。



3.3.6 駐車レバー（駐車ブレーキ）

⚠ 注 意

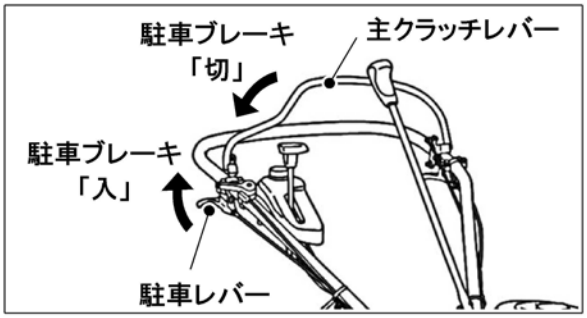
駐車ブレーキを使用するときは、機体が完全に停止してから必ず変速レバーを「前進１」または「後進」に入れ、駐車レバーを握ってください。

※ 変速レバーが「中立」の場合、主クラッチレバーを握って解除したときに、機体が下がり、ケガをするおそれがあります。

傾斜地などに駐車するとき、タイヤが回らないようにロックし、ブレーキをかけることができます。

駐車レバーを握る……ブレーキがかかる。

主クラッチレバーを握る……ブレーキが解除される。



補 足

- 駐車レバーを「入」にして駐車する場合は、機体を前後に動かしてみて、機体が動かないことを確認してください。
- 駐車レバーを操作するときは、機体が完全に停止してから操作してください。機体が動いているときに操作すると故障するおそれがあります。
- 傾斜地に駐車する場合は、機体を上り方向にして駐車レバーを「入」にしてください。下り方向では、機体が前に倒れるおそれがあります。

3.4　その他の装置とはたらき

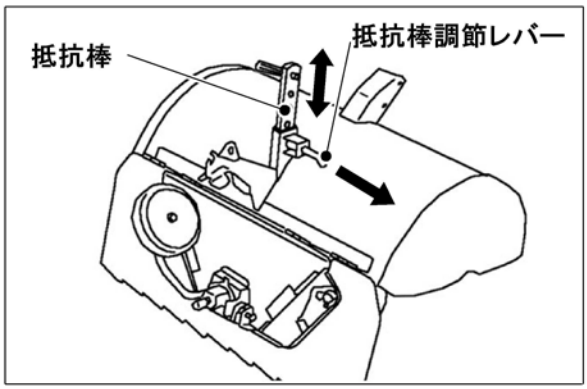
3.4.1　抵抗棒

耕うん深さを調節する役目をします。耕うん深さは抵抗棒を上下に移動することによって調節します。

抵抗棒調節レバーを引くと、抵抗棒を上下に移動できます。

抵抗棒を上げる……耕深が深くなる。

抵抗棒を下げる……耕深が浅くなる。



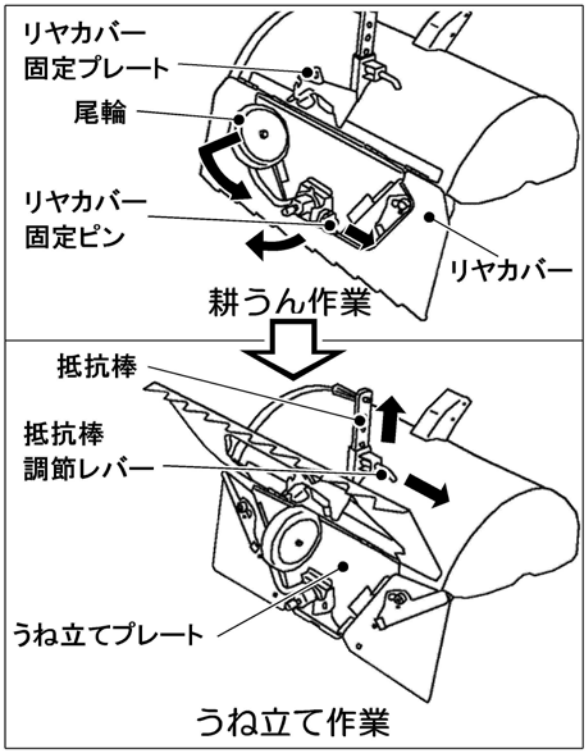
3.4.2　うね立てプレート（HX型）

うね立てプレートと尾輪を使用して、手軽にうね立てができます。

(1) リヤカバー固定ピンを引き、リヤカバーを持上げて、ロータリカバー後方のリヤカバー固定プレートに固定します。

(2) 尾輪本体を引いたまま上向きに回し、手を放して尾輪を上向きに固定します。

(3) 抵抗棒調節レバーを引き、抵抗棒を一番上位置にします。



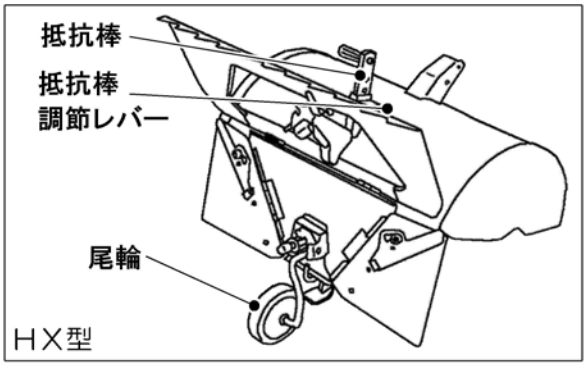
3.4.3　尾輪

爪を地面から浮かし、移動車輪として使用できます。

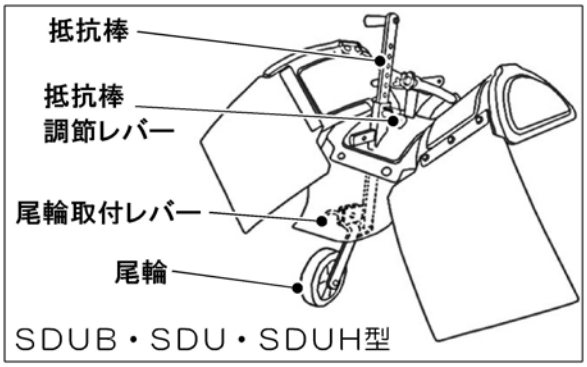
調節方法は「6.2.3尾輪の調節のしかた」を参照してください。（☞ 33ページ）

補 足

- 移動車輪として使用するときに尾輪が接地したまま旋回すると尾輪が破損するおそれがありますので、旋回時は尾輪を浮かせてください。



HX型



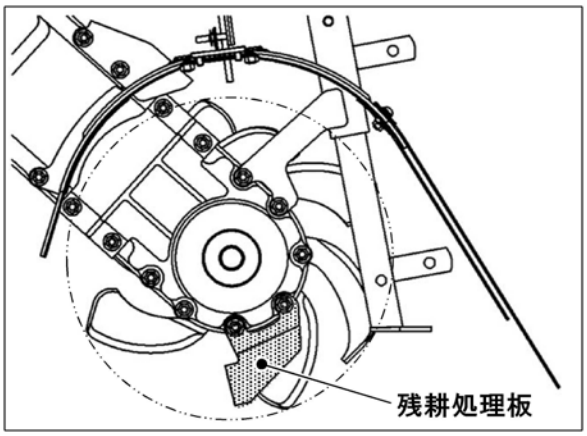
SDUB・SDU・SDUH型

3.4.4　残耕処理板（SDUB･SDU･SDUH型）

耕うん時、機体の前方への飛び出しを防止するとともに、残耕処理をする板です。

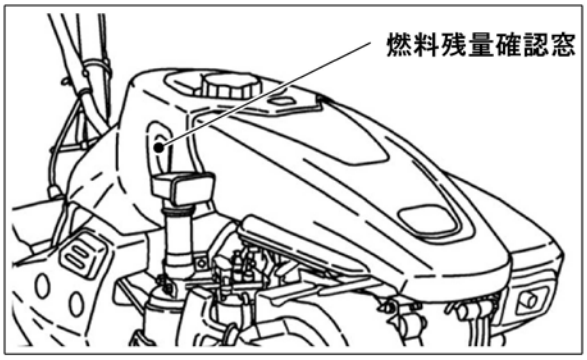
補 足

- 残耕処理板は消耗品です。機体の前方への飛び出しが、通常よりも頻繁に発生する場合は、残耕処理板の摩耗を確認してください。摩耗していたら交換してください。（☞ 48ページ）



3.4.5　燃料残量確認窓

燃料残量を確認できます。



4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険

エンジン停止後、エンジンが熱いうちは、燃料補給しないでください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
※　守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因となることがあります。

⚠ 警告

必ずエンジンを停止してから、行ってください。
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
※　守らないと、火災などを引き起こすことがあります。

4.1　点検項目

4.1.1　エンジンを始動する前に

点検箇所	点検項目	処　置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します。	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
警告ラベルの点検	・はがれ、破損等ありませんか。	・ある場合は新しいものに貼り替えてください。	10
油漏れ	・各部に漏れがありませんか。	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
燃料漏れ	・燃料が漏れていませんか。	・漏れがある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
エンジンオイル	・エンジンを水平にして、オイルゲージの上下限の間に油量がありますか。	・不足している場合は補給してください。	24
ミッションオイル	・機体を爪接地状態にして、検油口の縁まで入っていますか。	・不足している場合は補給してください。	25
エアクリーナ	・オイルパン内のオイルやエレメントが汚れていませんか。	・汚れている場合は清掃してください。	43
タイヤ	・空気圧は適正ですか。	・適性でない場合は調整してください。	45
燃料コック	・フィルタポットに水や沈殿物がたまっていませんか。	・たまっている場合は清掃してください。	44
燃料タンク	・作業に必要な量が入っていますか。	・不足の場合は補給してください。	26
耕うん爪 残耕処理板	・摩耗していませんか。	・摩耗が激しい場合は交換してください。	46 48

4.1.2　エンジンを始動して

点検箇所	点検項目	処　　置	参照ページ
排気ガス	・白煙や黒煙を吐きませんか。 ・異常な音はしませんか。	・白煙や黒煙を吐く場合や異常な音がする場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
主クラッチレバー	・主クラッチレバー「切」位置でベルトが付き回りしていませんか。	・付き回りしている場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
デフ切替レバー	・「デフ固定/直進」にしたときに、左右のタイヤが同じ回転になりますか。	・ならない場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
エンジンスイッチ	・スイッチを押して「停止」にしたとき、エンジンが停止しますか。	・停止しない場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—

4.2　各部の給油と検油

4.2.1　エンジンオイルの給油と検油

■ 給油

4ストロークガソリンエンジン用で、SF級以上の10W-30を使用してください。

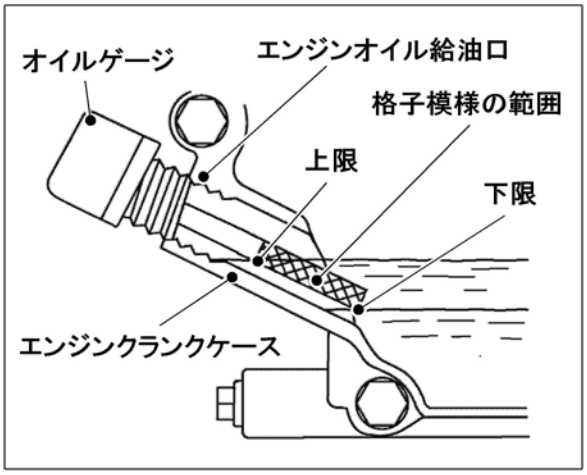
エンジンオイル量	0.55L

■ 検油

1 オイルゲージを抜いてオイルをきれいに拭き取り、ねじ込まないで給油口に差し込みます。

2 再度抜いて、ゲージの格子模様部分にオイルがついているか確認します。格子模様の範囲が上限と下限になり、範囲内にあれば正常です。

3 下限以下の場合、または作業中下限以下になりそうな場合は、上限まで補給してください。

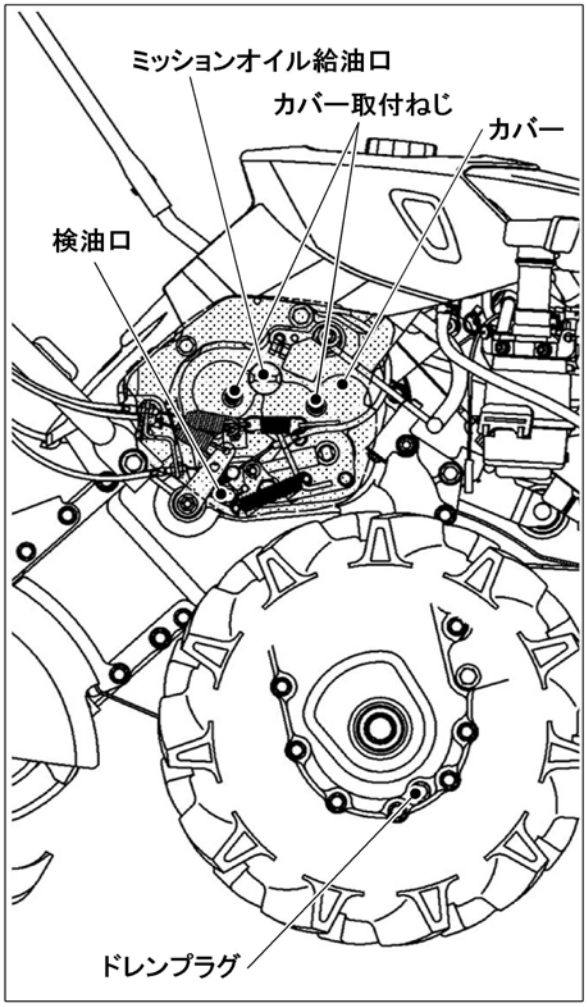


補 足

- エンジンオイル量は目安です。検油をする際はエンジンが水平になるようにタイヤの下に枕木などを入れた状態で行ってください。
- オイル給油口周りのゴミや汚れを取ってからオイルゲージを抜いてください。
- 取り外したオイルゲージは、砂・ゴミ等が付かない場所に置いてください。
- 給油口と検油口は兼用になっています。検油をした後は、オイルゲージを確実に締め付けてください。
- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。（☞ 52ページ）
- 汚れや変色がひどい場合は、交換してください。（☞ 42ページ）

4.2.2　ミッションオイルの給油と検油

ミッションオイル給油口と検油口はカバー内にありますので、給油と検油はカバーを外してから行ってください。



■ 給油

マルチＤＸギヤーオイル#80を検油口の縁まで入れてください。

ギヤーオイル量	約３.８Ｌ

■ 検油

1 検油口を開け、オイルが検油口の縁まで入っているかどうかを確認します。
オイルが検油口の縁まで入っていれば正常です。

2 オイルが不足している場合は、給油口からオイルを入れ、検油口の縁まで補給してください。

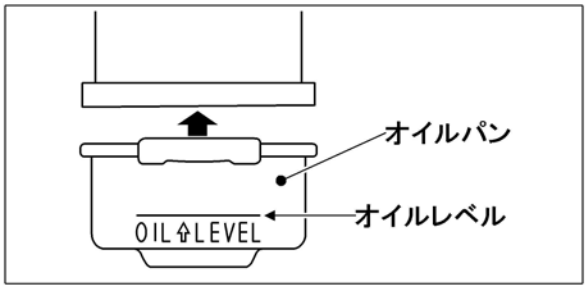
補 足

- 平たんな場所で、機体を爪接地状態にして、給油・検油してください。
- 給油・検油をした後は、給油口栓・検油口ネジを確実に閉めてください。
- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。（☞ 52ページ）

4.2.3　エアクリーナオイルの給油と検油

エアクリーナの下のオイルパンにオイルレベルまでオイルが入っているか確認してください。

オイルがオイルレベルまで入っていない場合は、オイルパンを外してエンジンオイルをオイルレベルの線まで入れてください。



補 足

- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。（☞ 52ページ）
- 汚れや変色がひどい場合は、交換してください。（☞ 43ページ）

4.2.4　燃料給油

⚠ 危険

燃料を入れるときは、フィルタの網を越えないようにしてください。
燃料がこぼれたときは必ず拭き取ってください。
※　傾斜時に燃料キャップから燃料があふれ、こぼれた燃料に引火し、やけどや火災の原因となります。

給油の際、燃料缶を使用する場合は、ガソリン用のものを使用してください。
給油のときは、燃料缶に記載された注意事項に従ってください。
※　守らないと、火災の原因となります。

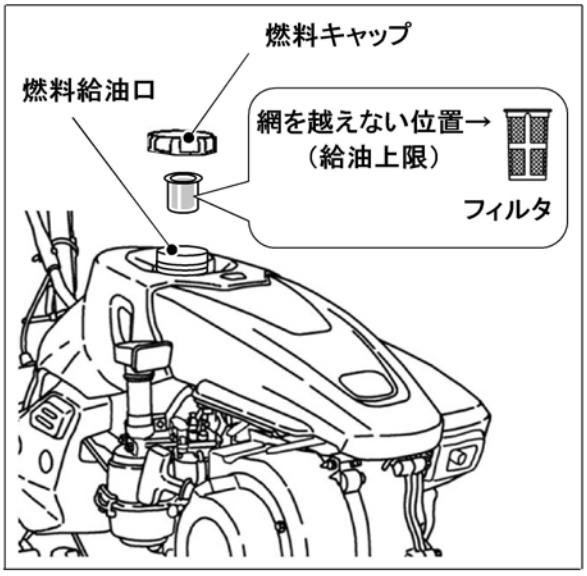
燃料は燃料キャップを開けて給油してください。
燃料は、自動車用無鉛ガソリンを使用してください。

燃料タンク容量	約2.2L

給油後、燃料キャップは確実に閉めてください。

補 足

- 燃料タンク内にゴミなどが入らないよう、給油時はフィルタを取らないでください。
- 機体を水平にした状態で給油してください。



5. 運転のしかた

⚠ 注 意

運転前には必ず作業前点検を行ってください。
※ 守らないと、正常な運転ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5.1 エンジンの始動と停止

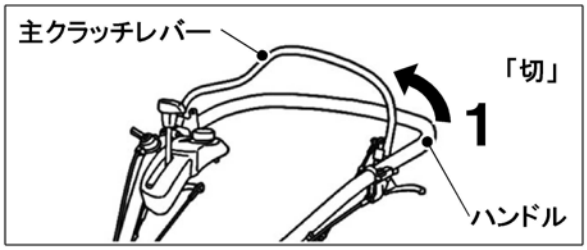
5.1.1 始動のしかた

⚠ 警 告

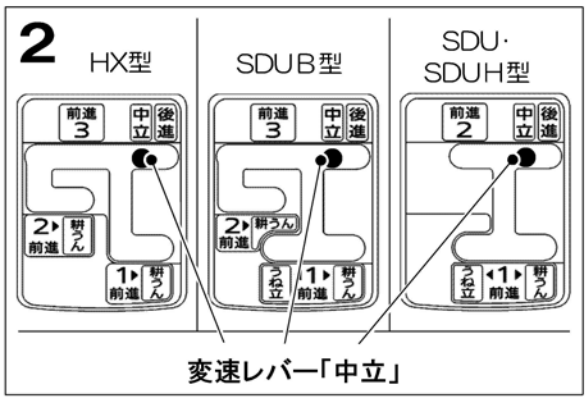
室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。
※ 換気が不十分な場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがあります。

エンジンを始動するときは、レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。
※ 守らないと、急発進することがあり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

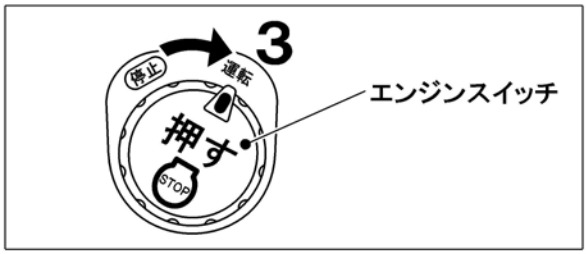
1 主クラッチレバーを「切」位置にしてください。（手を放す）



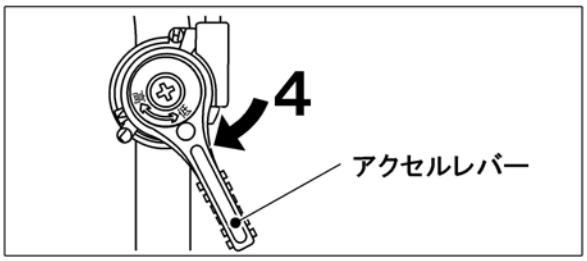
2 変速レバーを「中立」位置にしてください。



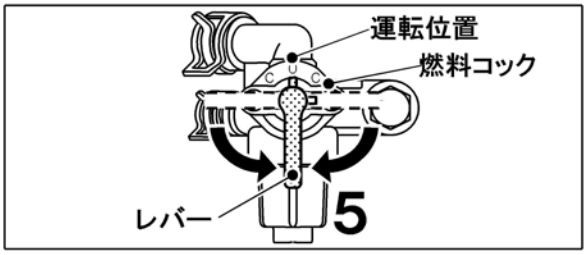
3 エンジンスイッチを「運転」位置にしてください。



4 アクセルレバーを１／３くらい「高」側に回してください。



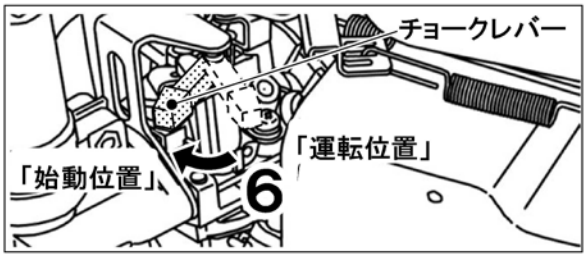
5 燃料コックのレバーを運転位置「O」にしてください。



6 チョークノブを「始動位置」にしてください。

補 足

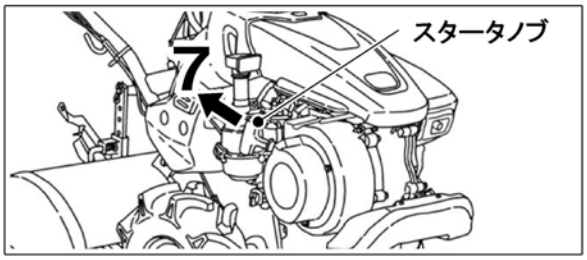
- エンジンが暖まっているときは、チョークノブを始動位置にしないでください。守らないとプラグがかぶり、始動しなくなります。



7 スタータノブを、重さを感じる位置から勢いよく引っ張ってください。

補 足

- 事前にスタータノブが引ける限界を確認しておき、限界にならない範囲で引いてください。
- スタータノブは引いたまま手を放さずゆっくりと戻してください。



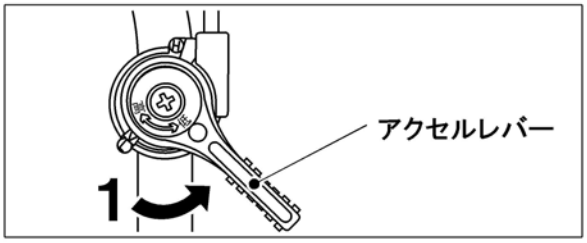
8 エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に戻していき、最後は完全に戻してください。

補 足

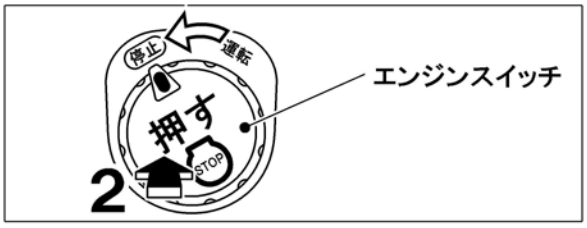
- エンジンの寿命・性能を保つため、エンジンの始動後はアイドリング回転で５分ほど運転してください。

5.1.2　停止のしかた

1 アクセルレバーを最も「低」側に回してください。



2 エンジンスイッチを押すと自動的に停止側を向き、エンジンが停止します。



5.2　発進と運転のしかた

5.2.1　発進と変速のしかた

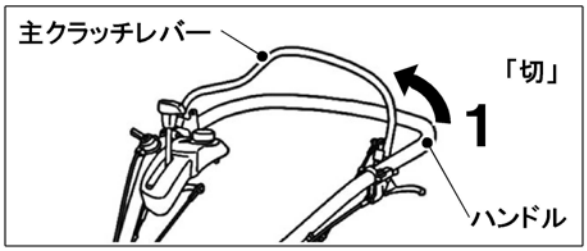
⚠ 警 告

耕うん機を発進させるときは、前後左右の安全を確認し、耕うん機の近辺に人を近づけないでください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

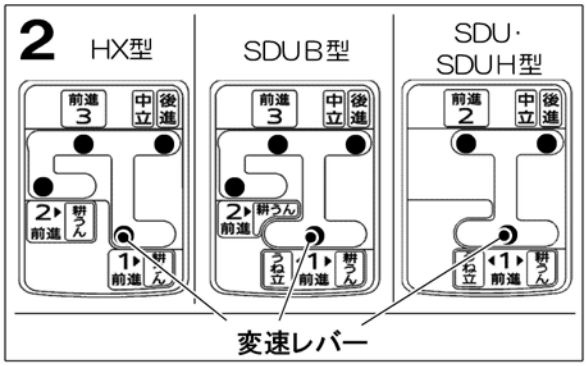
移動するときは、変速レバーをHX型の場合は「耕うん」、SDUB・SDU・SDUH型の場合は「耕うん」・「うね立」位置にしないでください。
※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

発進するときは、エンジン回転を低回転にして、徐々に主クラッチレバーを握り、ゆっくりと発進してください。
※　急発進すると、衝突・転倒事故を引き起こすおそれがあります。

1 主クラッチレバーを「切」位置にしてください。（手を放す）



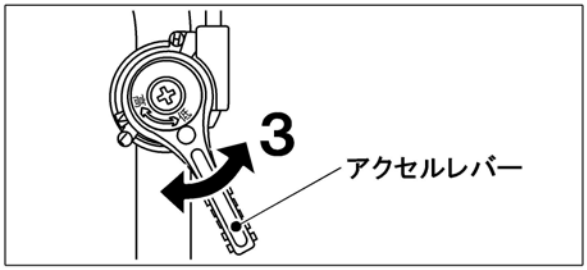
2 変速レバーを希望の位置に入れてください。



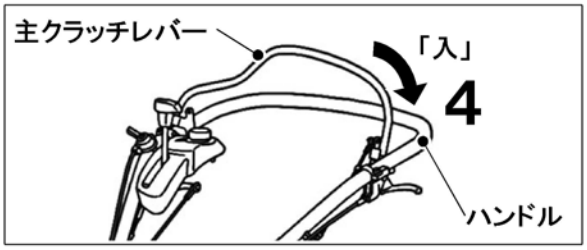
補 足

- 変速レバーが入りにくい場合は、無理に操作せず、主クラッチレバーを一瞬握って放し、軽く操作できる状態で操作してください。無理に操作すると、機体が故障するおそれがあります。

3 アクセルレバーでエンジンの回転を調整してください。



4 ハンドルをしっかりと握ります。
徐々に主クラッチレバーを握って、クラッチを「入」にして発進してください。

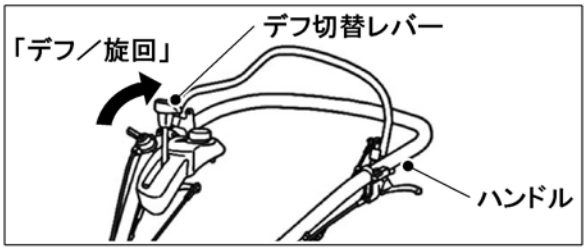


補 足

- ベルトが滑る原因になりますので、運転中は主クラッチレバーもしっかり握ってください。

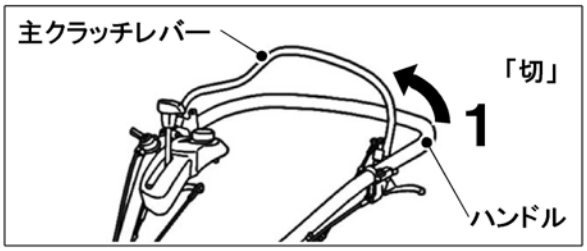
5.2.2　旋回のしかた

デフ切替レバーを「デフ／旋回」位置にし、ハンドルを持ち上げてから希望の方向に振って行ってください。

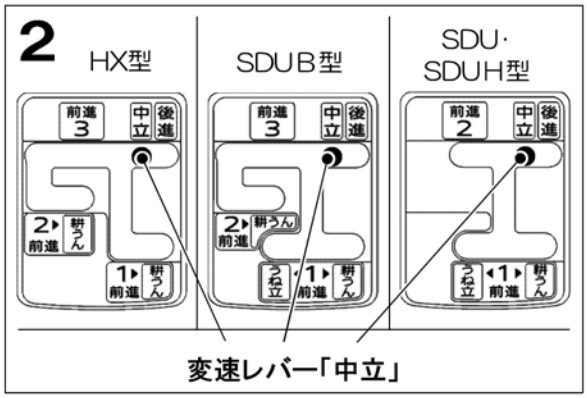


5.2.3　停止のしかた

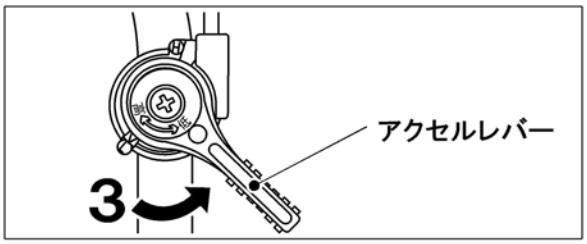
1 主クラッチレバーを「切」位置にしてください。（手を放す）



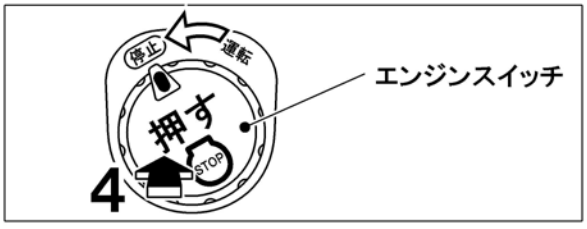
2 走行変速レバーを「中立」位置にしてください。



3 アクセルレバーを最も「低」側に回してください。



4 エンジンスイッチを押すと自動的に停止側を向き、エンジンが停止します。



6. 作業のしかた

6.1 作業に関する注意

⚠ 警告

本耕うん機は作業灯を備えていませんので、夜間の作業は絶対に行わないでください。
作業は早めに切り上げてください。
※　暗くなるまで作業をしていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

耕うん爪等の回転部やマフラ・エンジン等の高温部には、手や足を触れないでください。
※　傷害事故の原因となるおそれがあります。

作業を開始するときは、周囲の状況を確認してください。特に補助者とともに作業するときは、声をかけて合図してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

あぜを横断するときは、必ずデフ切替レバーを「デフ固定／直進」にしてください。
※　守らないと、急にハンドルをとられ、転倒することがあります。

あぜを横断するときは、いったん停止してエンジンの回転を低くして、あぜと直角にゆっくり走行してください。
また、あぜの高さが高いところでの、ほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。
※　守らないと、スリップや転倒をし、傷害事故を起こすことがあります。

ほ場への出入りのときは、上りは前進、下りは後進で行い、急傾斜を避け、安全な所から入ってください。
※　守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。

後進をするときは、後方や足もとに十分注意して、エンジンの回転を低くして行ってください。
後進時は、機体の姿勢やバランスが急に変わります。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

機械を離れるときは、「平らな場所」を選び、エンジンを止めてください。やむを得ず傾斜地に置くときは、必ず駐車レバーを「入」にし、タイヤに「車止め」をして、機械が動いたり、倒れたりしないのを確認してから離れてください。
※　守らないと、機械が自然に動きだし、事故の原因となります。

傾斜地で作業するときは、転倒・スリップをしないよう、バランスに十分注意してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

旋回するときは、足もとに十分注意してください。
※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

作業中は、作業者以外の人を機械に近づけないでください。
特に、子供には注意してください。
※　機械自体や作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注 意

フロントウエイトが地面に付いた姿勢で長時間放置するときは、燃料コックを「停止」にしてください。
※　守らないと、エンジン不調の原因となります。

6.2　作業に適した調節のしかた

⚠ 警 告

調節をするときは、必ずエンジンを停止してから、行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

調節をするときは、機械のバランスに注意しながら行ってください。
※　守らないと、バランスが不安定になり、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

6.2.1　ハンドル調節のしかた

⚠ 警 告

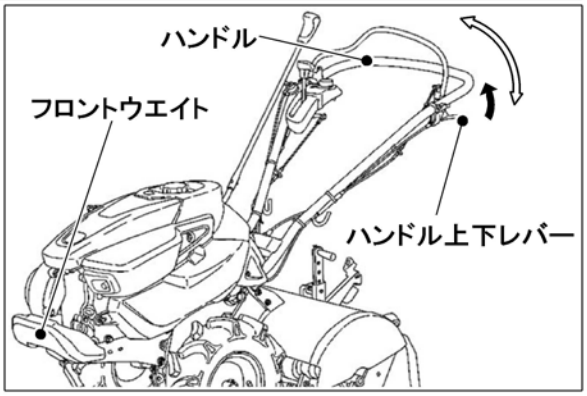
ハンドルを調節するときは、必ずフロントウエイトが地面についた姿勢で行ってください。
※　守らないと、急に前が下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

積み・降ろしの途中で、ハンドル上下レバーを操作しないでください。
※　守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。

体格や作業状態に合せてハンドル高さを調節してください。

ハンドル上下レバーをにぎると、ワンタッチで４段階のハンドル高さ調節ができます。

1. 片手でハンドルをにぎり、もう片手でハンドル上下レバーをにぎったまま、希望の高さまで上下させます。
2. 希望の位置でハンドル上下レバーから手を放すと、最寄りの位置でハンドルが固定されます。

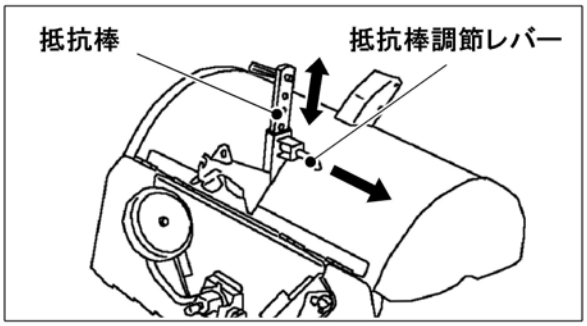


6.2.2　抵抗棒の調節のしかた

耕うん深さを調節する役目をします。耕うん深さは抵抗棒を上下に移動することによって調節します。

抵抗棒調節レバーを引くと、抵抗棒を上下に移動できます。

抵抗棒を上げる……耕深が深くなる。
抵抗棒を下げる……耕深が浅くなる。

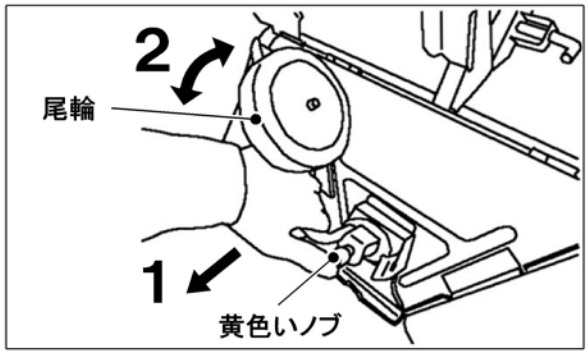


6.2.3　尾輪の調節のしかた

■ HX型

1 黄色いノブを、図のように親指で押すようにしながら尾輪本体を引きます。

2 尾輪本体を引いたまま回し、任意の位置で手を放すと固定されます。

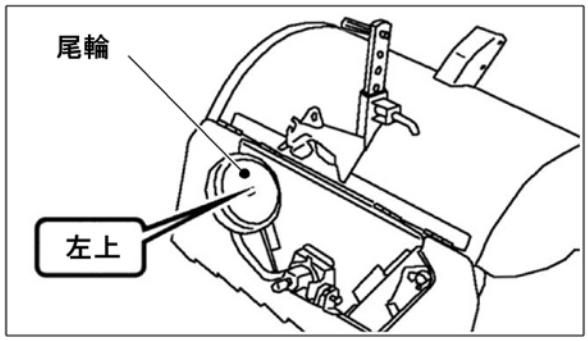


補 足

- リヤカバーが下がっているときは、尾輪を下向きにすることができませんので、リヤカバーを上部で固定してから尾輪を下向きにしてください。

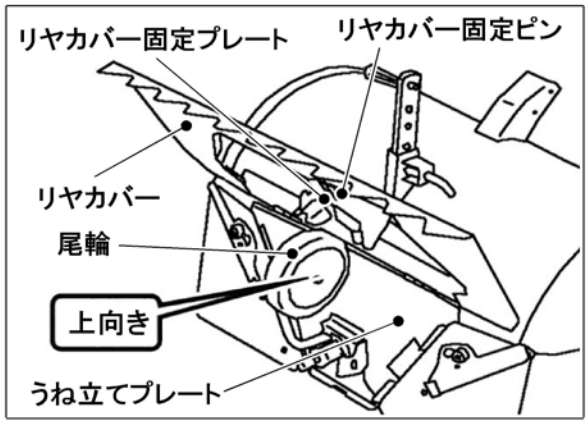
⑴　耕うん作業

尾輪を操作し、左上を向くように固定します。



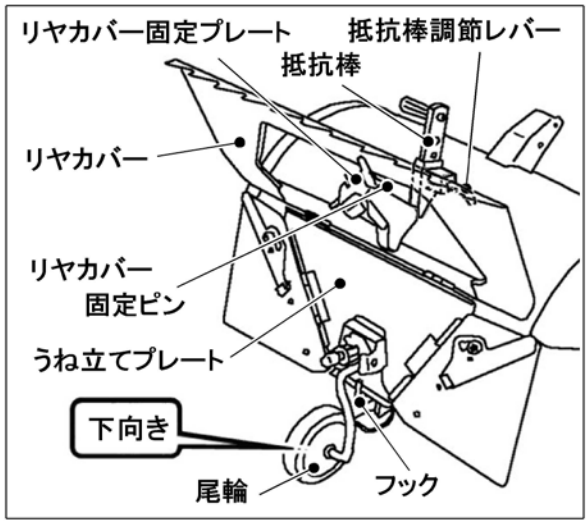
⑵　うね立て作業

リヤカバー固定ピンを引き、うね立てプレートとリヤカバーのロックを解除します。
リヤカバーを持ち上げ、リヤカバー固定プレートにピンを差しみます。
尾輪を操作し、上向きになるように固定します。



⑶　移動時

リヤカバー固定ピンを引き、うね立てプレートとリヤカバーのロックを解除します。
リヤカバーを持ち上げ、リヤカバー固定プレートにピンを差しみます。
抵抗棒調節レバーを引き、一度抵抗棒を一番下に下げてから、上げる際に抵抗棒の後方にあるフックでうね立てプレートを固定してください。
尾輪を操作し、下向きになるように固定します。



■ SDUB･SDU･SDUH型

(1) 耕うん作業

尾輪ステーに尾輪が上になるように差し込み、尾輪ステーの穴に尾輪取付レバーで固定します。
（尾輪は使用しません）

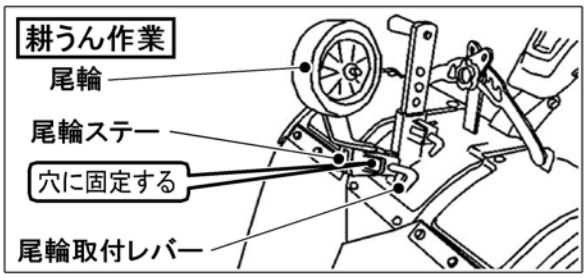
(2) うね立作業

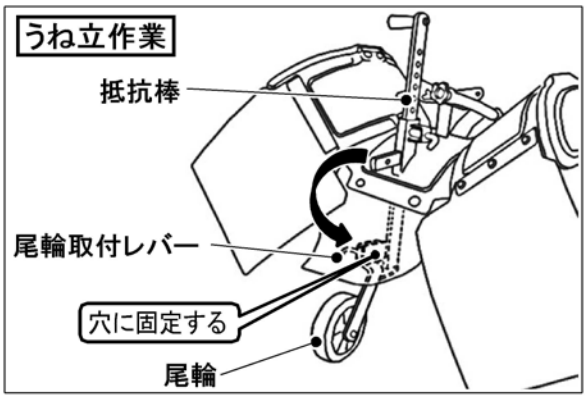
尾輪取付レバーを引いて尾輪を取り外し、抵抗棒下側のプレートに取り付け、抵抗棒を上下させてうね高さを調節します。

尾輪を上げる…… うねが高くなる。
尾輪を下げる…… うねが低くなる。

(3) 移動時

うね立作業状態から抵抗棒を一番下げると移動車輪として使用できます。





6.2.4 車輪幅の調節のしかた

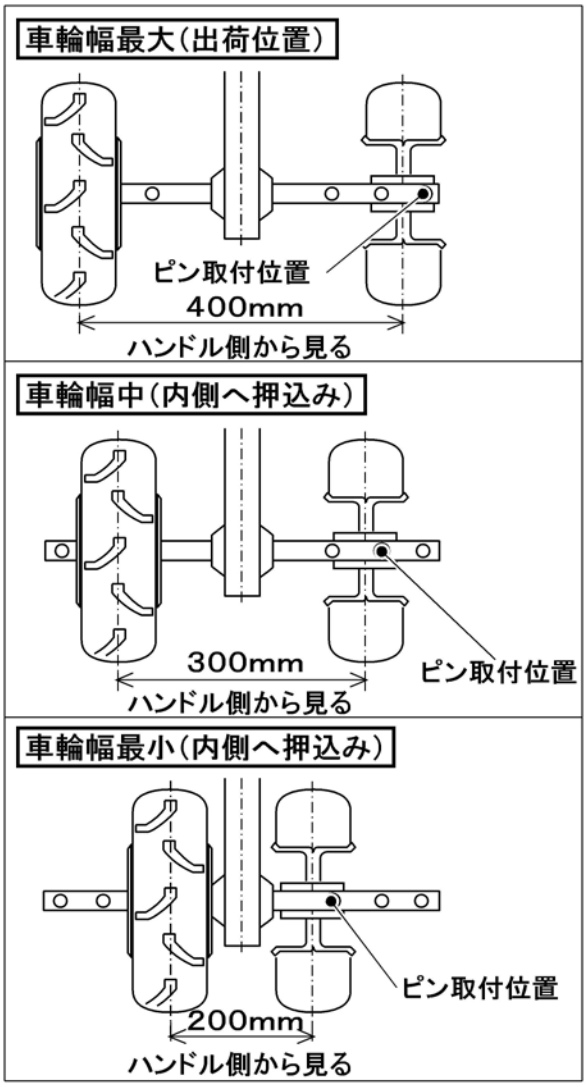
作業に合せて車輪幅を調節してください。

■ HX型

右図の輪距400mm・300mmの2箇所に調節ができます。

■ SDUB･SDU･SDUH型

右図の輪距400mm・300mm・200mmの3箇所に調節ができます。

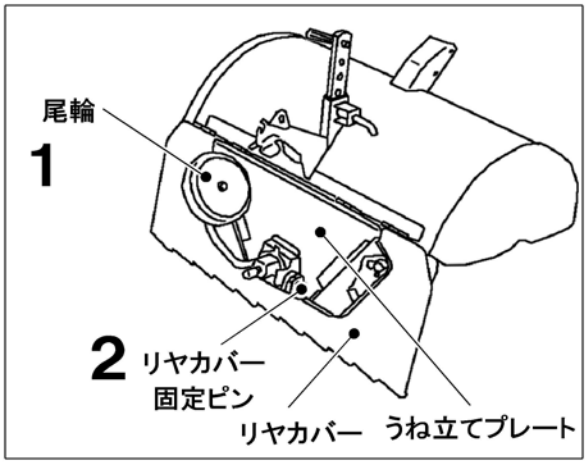


6.3　耕うん作業のしかた

6.3.1　耕うん作業のしかた

■ HX型

1 尾輪を「耕うん作業」位置に固定します。（☞ 33ページ）



補 足

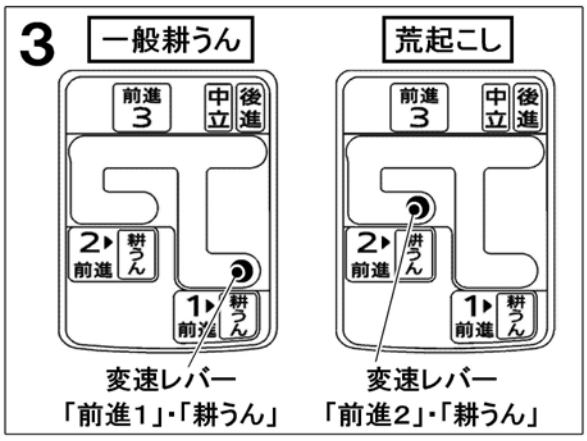
- 尾輪が「移動」・「うね立て作業」の位置では耕うんができませんので、必ず「耕うん作業」の位置にしてください。

2 リヤカバー固定ピンで、リヤカバーとうね立てプレートを固定します。

3 変速レバーを希望の位置にして作業を行ってください。

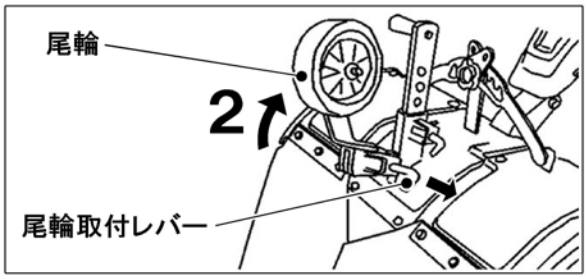
(1) 一般耕うん
変速レバーは「前進１」・「耕うん」で作業を行ってください。

(2) うね崩し等の荒起こし
変速レバーは「前進２」・「耕うん」で作業を行ってください。



■ SDUB・SDU・SDUH型

1 SDUB・SDU型は、爪軸を「耕うん」の向きに取り付けます。（☞ 47ページ）

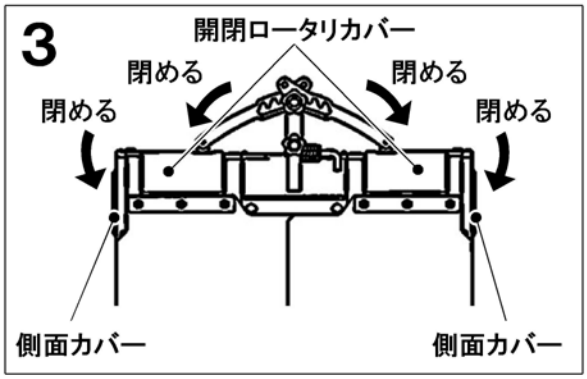


2 尾輪を「耕うん作業」位置に取り付けます。（☞ 34ページ）

補 足

- 尾輪が「移動」・「うね立て作業」の位置では耕うんができませんので、必ず「耕うん作業」の位置にしてください。

3 開閉ロータリカバーと側面カバーを閉めます。



4 変速レバーを希望の位置にして作業を行ってください。

■ SDUB型

(1) 一般耕うん

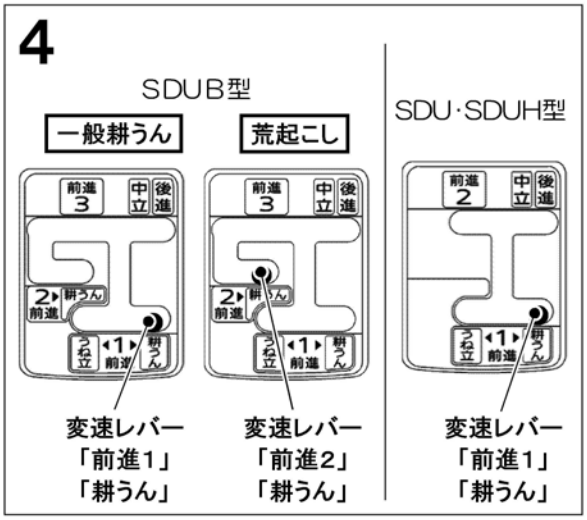
変速レバーは「前進１」・「耕うん」で作業を行ってください。

(2) うね崩し等の荒起こし

変速レバーは「前進２」・「耕うん」で作業を行ってください。

■ SDU･SDUH型

変速レバーは「前進１」・「耕うん」で作業を行ってください。



6.3.2　うね立て作業のしかた

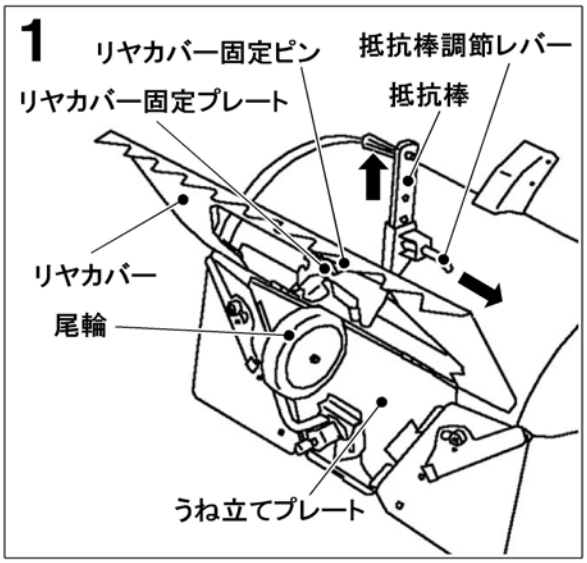
■ HX型

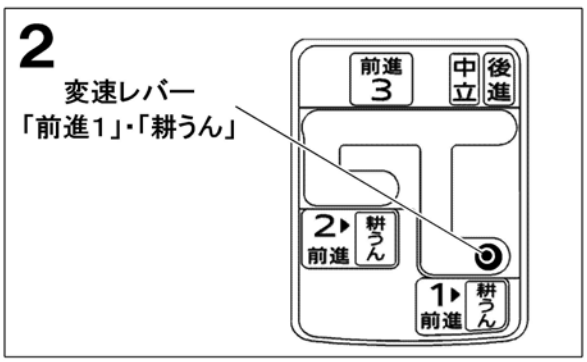
1 リヤカバー、尾輪、抵抗棒を「うね立て作業」位置にします。（☞ 33ページ）
抵抗棒調節レバーを引き、抵抗棒を一番上に上げてください。

補 足

- うね立て作業の前に、耕うんを十分行ってください。
- 尾輪が「耕うん作業」・「移動」位置ではうね立てができません。必ず「うね立て作業」位置にしてください。
- 抵抗が大きく進みにくい場合は、抵抗棒を下げて調節してください。

2 変速レバーは「前進１」・「耕うん」で作業を行ってください。





■ SDUB･SDU･SDUH型

1 開閉ロータリカバーと側面カバーを開きます。

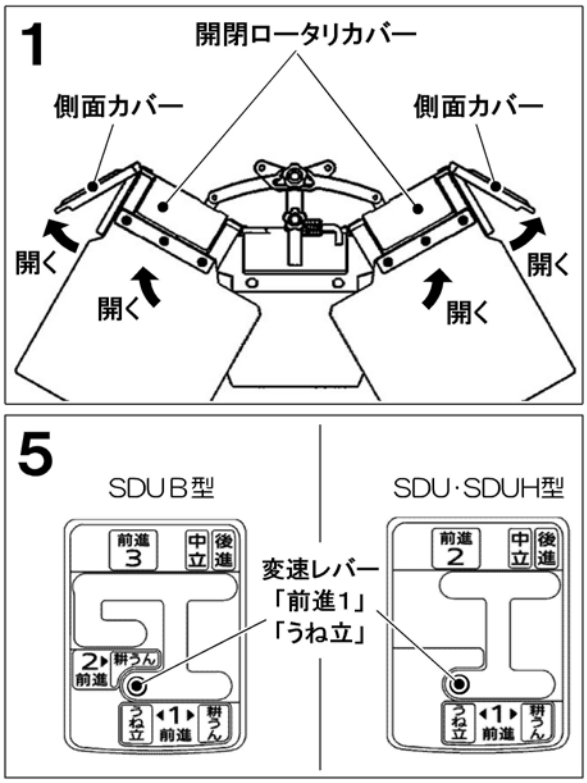
2 ＳＤＵＢ・ＳＤＵ型は、爪軸をうね立の向きに取り付けます。（☞47ページ）

3 尾輪を「うね立て作業」位置に取り付けます。（☞34ページ）

4 抵抗棒を上下させてうね高さを調節します。（☞32ページ）

尾輪を上げる…… うねが高くなる。
尾輪を下げる…… うねが低くなる。

5 変速レバーは「前進１」・「うね立」で作業を行ってください。



補 足

- うね立て作業の前に、耕うんを十分行ってください。

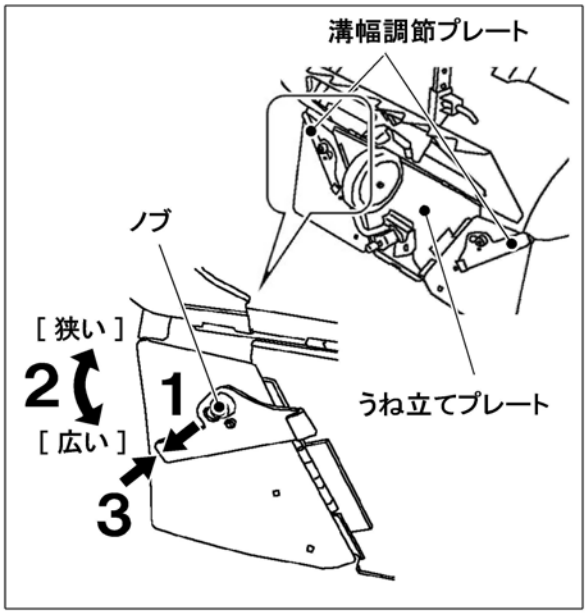
6.3.3　溝幅調節のしかた（HX型）

うね立てプレートにある溝幅調節プレートの角度を変更することにより、溝の上部の幅を変更（[狭い]⇔[広い]）することができます。

1 ノブを引いてプレートの固定を解除します。

2 ノブを引いたまま、溝幅調節プレートの角度を変更します。

3 ノブを戻し、プレートを固定します。



6.3.4　ロータリアップストップのしかた

⚠ 警 告

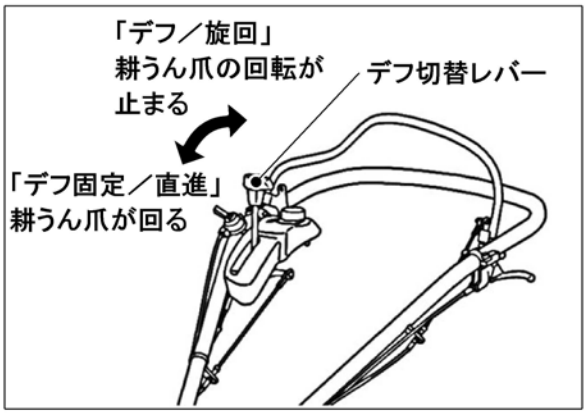
耕うん爪に草やわらが巻きついた場合は、エンジンを止めて早めに取り除いてください。
※　守らないと、デフ切替レバーを「デフ／旋回」にしても爪軸の回転が止まらず、思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ほ場の条件にもよりますが、知っておくと便利です。
ロータリクラッチ連動切替アームを「デフ切替レバーとの連動」位置にして耕うんします。
（☞ 19ページ）

■ ロータリアップストップのしかた

⑴　あぜ際から３～５ｍ手前でデフ切替レバーを「デフ／旋回」にして、そのまま耕うんを続けます。

⑵　旋回するときに、ハンドルを持ち上げて耕うん爪が土から離れると、耕うん爪の回転が止まります。



■ ダッシング時の安全装置としての使い方

⑴　耕うん中に未耕地のような硬い場所にかかったとき、すぐにデフ切替レバーを「デフ／旋回」にして、そのまま耕うんします。

⑵　耕うんできず走り出し（ダッシング）、ロータリが浮き上がると、耕うん爪の回転が止まります。

■ 再度耕うん作業をするとき

⑴　デフ切替レバーを「デフ固定／直進」にします。耕うん爪が回り、耕うん作業ができます。

7. 点検整備

次ページの一覧表に従い、定期的に点検整備を行ってください。

⚠ 警告

給油および点検整備をするときは、(１)耕うん機を平たんな広い場所に置き、(２)エンジンを停止し、(３)エンジンが十分冷えてから、安全を確認して行ってください。

※　安全を確認せずに点検整備すると、傷害事故を引き起こすことがあります。

⚠ 注意

取り外したカバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。

※　廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

■ 新車初期点検

作業時間が２０時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず新車時の初期点検整備を実施してください。
新車時の初期点検整備は、耕うん機の耐久性にとって大事な項目ですので「お買いあげ先」での点検、整備をおすすめします。

補 足

- 点検整備項目の中には、消耗品の扱いとなっている部品も含んでいます。交換が必要な部品は「純正部品」を注文してください。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、「お買いあげ先」へ問い合わせください。

7.1　毎日の手入れ

⑴　機体に付いた土、草、ワラ等を落としてください。
⑵　エアクリーナの吸気口から水が入らないように注意して水洗いをしてください。
⑶　エアクリーナのエレメントに付いた土やほこりを落としてください。
（☞ 43ページ）

7.2　長期間使用しない場合の手入れ

⑴　エンジンは、スタータノブを引き、重さを感じる位置で止めてください。
⑵　１か月以上使用しない場合は、燃料タンクとキャブレタ内の燃料を抜いてください。（☞ 44ページ）

7.3 定期点検・整備箇所一覧表

○:点検、補充、調整 ●:交換 △:清掃、洗浄 ★:「お買いあげ先」での交換・点検をおすすめします。

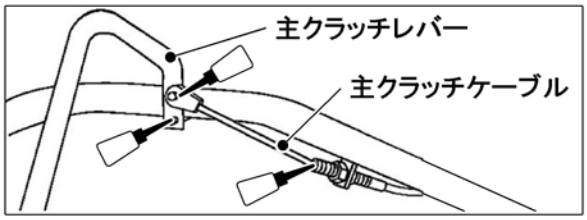
点検項目		点検時間	作業時間 作業前	新車初期点検★	50時間	100時間★	150時間	200時間★	1回／1ケ月	1回／1年★	1回／2年★	備考	参照ページ
エンジン	エンジンオイル	点検 交換	○	●	●	●	●	●				50時間ごと	42
	エアクリーナ エアクリーナのオイル	清掃 交換	○	△	△	△	△	△				50時間ごと	43
	燃料	点検 補充	○										26
	燃料フィルタ	洗浄		△	△	△	△	△				50時間ごと	44
	燃料タンク内部	清掃								★		1回／1年	－
	点火プラグ	清掃 調整				△		△				100時間ごと	45
	リコイルスタータ	清掃	△										15
	各部ボルト・ナットのゆるみ	点検	○	○	○	○	○	○				50時間ごと	－
	各部の損傷・漏れ	点検	○										－
本体	各レバー類の作動	点検	○										－
	各部ボルト・ナットのゆるみ	点検	○										－
	各ピン類の確認	点検	○										－
	ベルトの付き回り	点検	○	○	○	○	○	○				50時間ごと	－
	ミッションオイル	点検 交換	○		●		●					初回50時間 後100時間ごと	43
	油漏れの確認	点検	○										－
	タイヤの空気圧	点検	○	○						★		1回／1年	45
	燃料ホース	点検	○								★	2年ごとに交換	－
	各ケーブル類	点検	○	○							★	1回／2年	54
	電気配線	点検	○								★	1回／2年	54

7.4　各部の注油

定期的に油差しで注油してください。

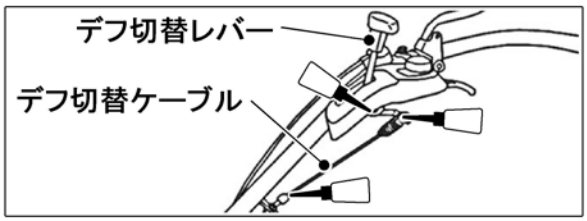
7.4.1　主クラッチケーブル、レバー支点

右図の ⊐━ の箇所を注油してください。



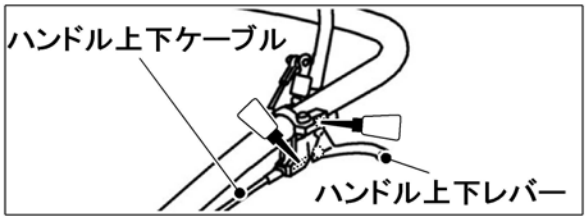
7.4.2　デフ切替ケーブル、レバー支点

右図の ⊐━ の箇所を注油してください。



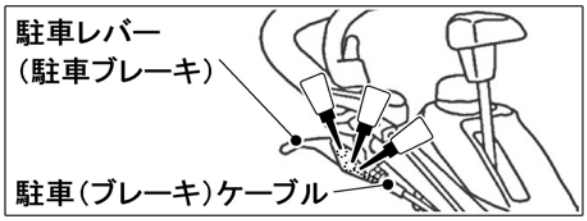
7.4.3　ハンドル上下ケーブル、レバー支点

右図の ⊐━ の箇所を注油してください。



7.4.4　駐車（ブレーキ）ケーブル、レバー支点

右図の ⊐━ の箇所を注油してください。



7.4.5　テンションアーム支点

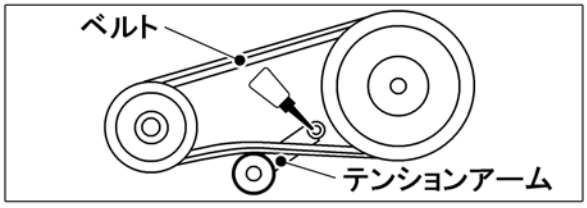
⚠ 注 意

注油後は、元のとおりにベルトカバーを取り付けてください。
※　守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。

ベルトカバーを外して右図の ⊐━ の箇所を注油してください。

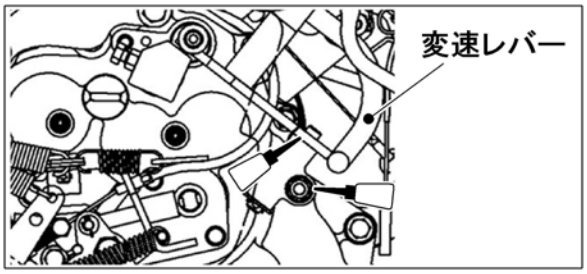
補 足

- ベルトには油をつけないでください。
  動力が伝わらなくなります。



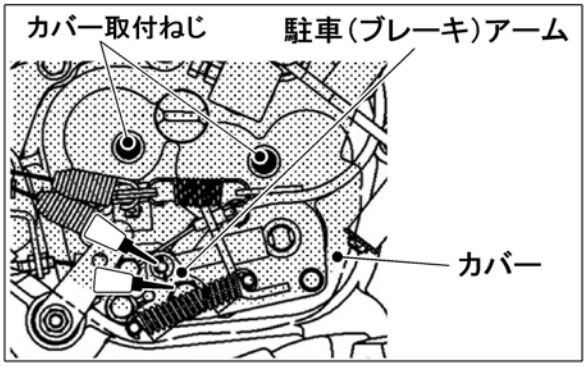
7.4.6　変速レバー支点

変速レバーで動かされ、左右に動いたり、回動する右図の ☞ の箇所に注油してください。



7.4.7　駐車（ブレーキ）アーム支点

駐車レバー（駐車ブレーキ）で動かされ、回動する右図の ☞ の箇所に注油してください。
駐車（ブレーキ）アーム支点はカバー内にありますので、注油の際はカバーを外してから行ってください。



7.5　各部のオイルの点検・交換

補 足

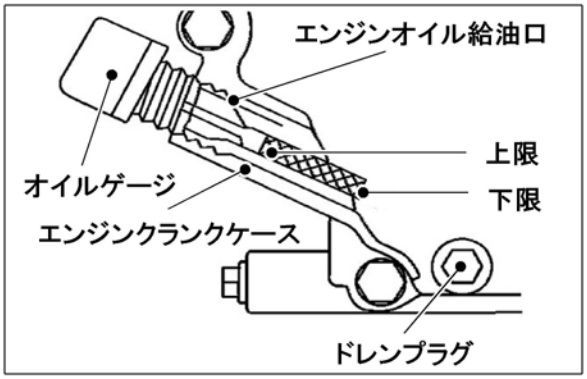
- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または「お買いあげ先」へ依頼してください。廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。

7.5.1　エンジンオイルの点検・交換

■ 点検

各部の給油と検油の項をお読みください。
（☞ 24ページ）

■ 交換



1 エンジンオイル量にみあう容器を準備し、ドレンプラグを外してオイルを排出します。

2 排出し終わったらドレンプラグを確実に締め付け、給油口からエンジンオイルを入れてください。

エンジンオイル量	KCR659	0.55L

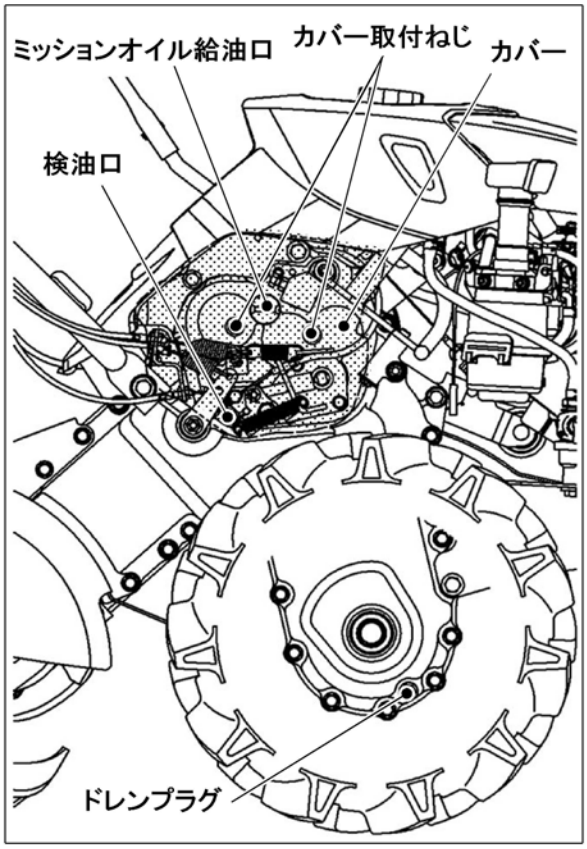
補 足

エンジンオイル量は交換の際の目安です。交換後は必ず検油してください。
（☞ 24ページ）

- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。（☞ 52ページ）

7.5.2　ミッションオイルの点検・交換

ミッションオイル給油口と検油口はカバー内にありますので、点検と交換はカバーを外してから行ってください。



■ 点検

各部の給油と検油の項をお読みください。
（☞ 25ページ）

■ 交換

1 ギヤーオイル量にみあう容器を準備し、ドレンプラグを外してオイルを排出します。

2 排出し終わったらドレンプラグを確実に締め付け、給油口からギヤーオイルを入れてください。

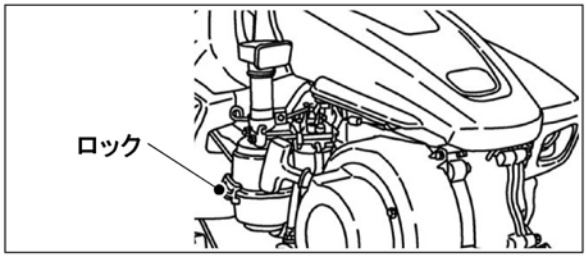
ギヤーオイル量	約３.８Ｌ

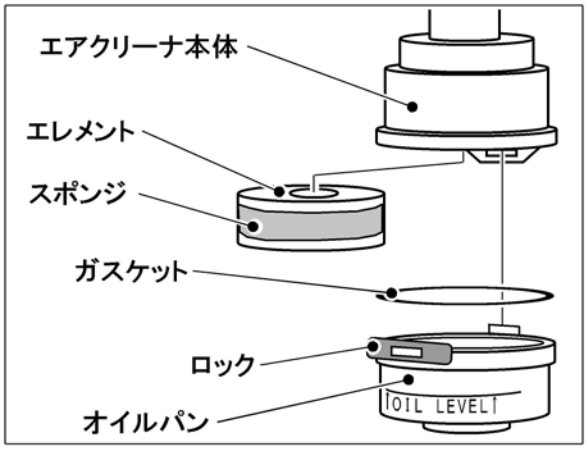
補 足

- ギヤーオイル量は交換の際の目安です。交換後は必ず検油してください。
（☞ 25ページ）
- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。（☞ 52ページ）

7.6　エアクリーナの清掃

吸入空気はオイルパン内のオイルによってきれいになります。オイルが汚れたまま使用しますと、エンジン内部の損傷、あるいは出力低下をまねきます。





1 エアクリーナのロック上部を引いて、中のオイルがこぼれないようにオイルパンをはずしてください。

2 エアクリーナのオイルパン内のオイルが汚れていないか確認し、汚れていれば、エレメントも取り出してください。

3 エレメントを白灯油で洗い、エンジンオイルを塗布した後、滴を振り切ってから取り付けてください。オイルパンも白灯油で洗い、よくふき取ってからエンジンオイルを規定量（オイルレベルの線）まで入れ、各部品を元どおり取り付けてください。

補 足

- 洗浄するとき、ガソリンは絶対使用しないでください。
- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。（☞ 52ページ）

7.7 燃料の抜きかた

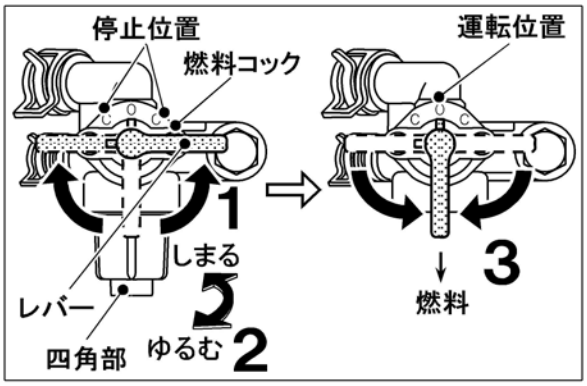
注 意

長期保管する場合は、必ず燃料を抜いてください。
※ 守らないと、燃料が変質し、次の使用が困難になる場合があります。

7.7.1 燃料の抜きかた

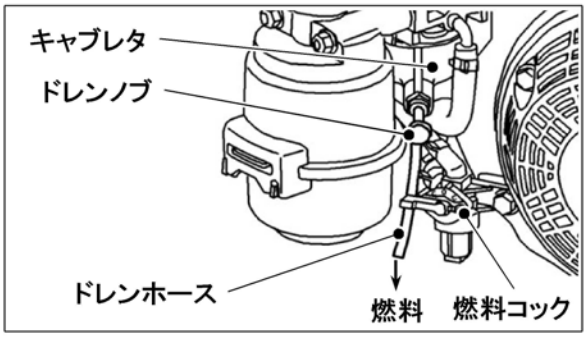
■ 燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 抜く燃料の量にみあう容器を用意して、レバーを排出位置「C」にします。
2. フィルタポットを、四角部に二面幅１０mmのスパナ等の工具をかけてゆるめ、外します。
3. 燃料コックの下に容器を置き、レバーを運転位置「O」にすると、燃料タンク内の燃料が出てきます。
4. 燃料をすべて抜き取ったら、レバーを停止位置「C」にし、フィルタポットを元のとおり取り付けます。



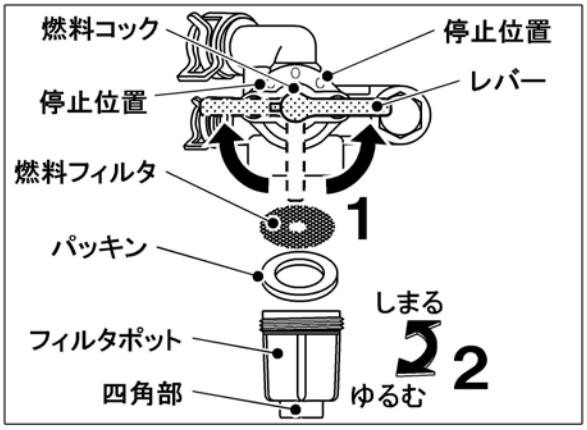
■ キャブレタ内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックのレバーを停止位置「C」にし、ドレンホースの下に容器を置きます。
2. ドレンノブを引いて、キャブレタ内の燃料を抜き、すべて抜き取ったら、ノブをはなします。



7.7.2 燃料フィルタの清掃

1. レバーを停止位置「C」にします。
2. フィルタポットを、四角部に二面幅１０mmのスパナ等の工具を掛けてゆるめ、外します。
3. パッキンと燃料フィルタを取り出し、フィルタポットと燃料フィルタを洗浄油で洗浄し、乾燥させます。
4. 燃料フィルタ、パッキン、フィルタポットの順に、元のとおりに取り付けます。



7.8　点火プラグの整備

点火プラグは前フードを開けた中にあります。

1 フード先端に手を添え、図の固定ボタンを押しながら前方にスライドさせ、前フードを外します。

2 点火プラグキャップを点火プラグから外し、付属のプラグレンチと、お手持ちの工具（プラスドライバーなど）を使って点火プラグを取り外します。

3 点火プラグを外し、乾いた布で拭くか、プラグ用のブラシで清掃して汚れを落としてください。

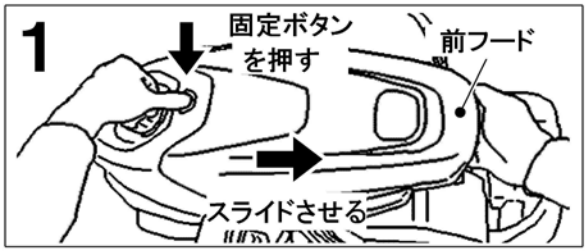
4 点火プラグの電極スキマを0.6～0.7mmに調整します。

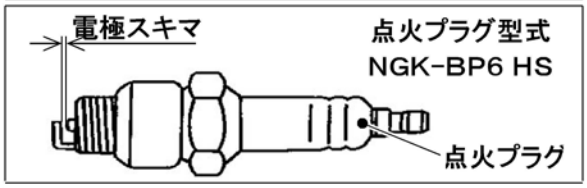
5 点火プラグを手で仮締めしてからプラグレンチとレンチ用バーを使って確実に取り付けます。

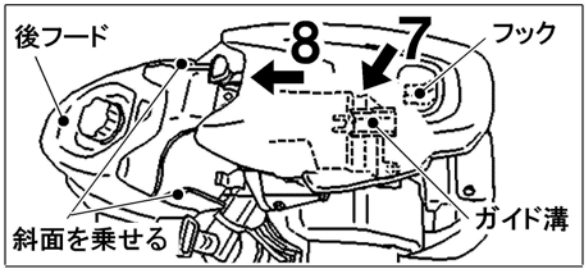
6 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取り付けます。

7 前フードのフックと左右の斜面を、それぞれガイド溝と後フードに乗せます。

8 後方にスライドさせて、固定ボタン部でロックします。







7.9　タイヤの空気圧

⚠ 警告

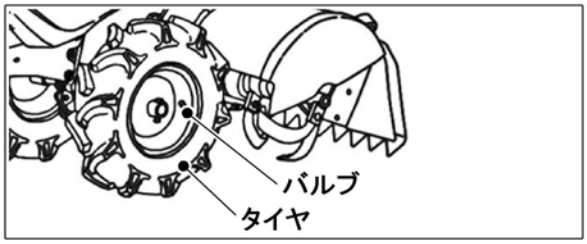
タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
※　タイヤが破裂し、死傷事故のおそれがあります。

タイヤの空気圧は、規定圧を必ず守ってください。
※　空気の入れ過ぎは、タイヤの破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は、必ず「お買いあげ先」にご相談ください。
※　法律で特別教育を受けた人が行うように定められています。

タイヤの空気圧は、タイヤサイズに合せて規定圧にしてください。

タイヤの空気圧	規定圧
3.50-7	140kPa {1.4kgf/cm²}
4.00-7	120kPa {1.2kgf/cm²}

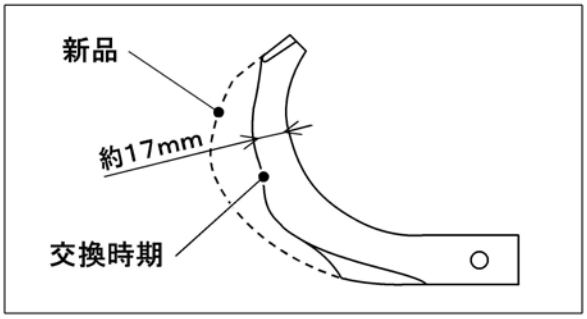


7.10　耕うん爪の取り付けかた

⚠ 警告

爪の点検や交換をするときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
※　守らないと、機械が思わぬ動きをして傷害事故を引き起こすおそれがあります。

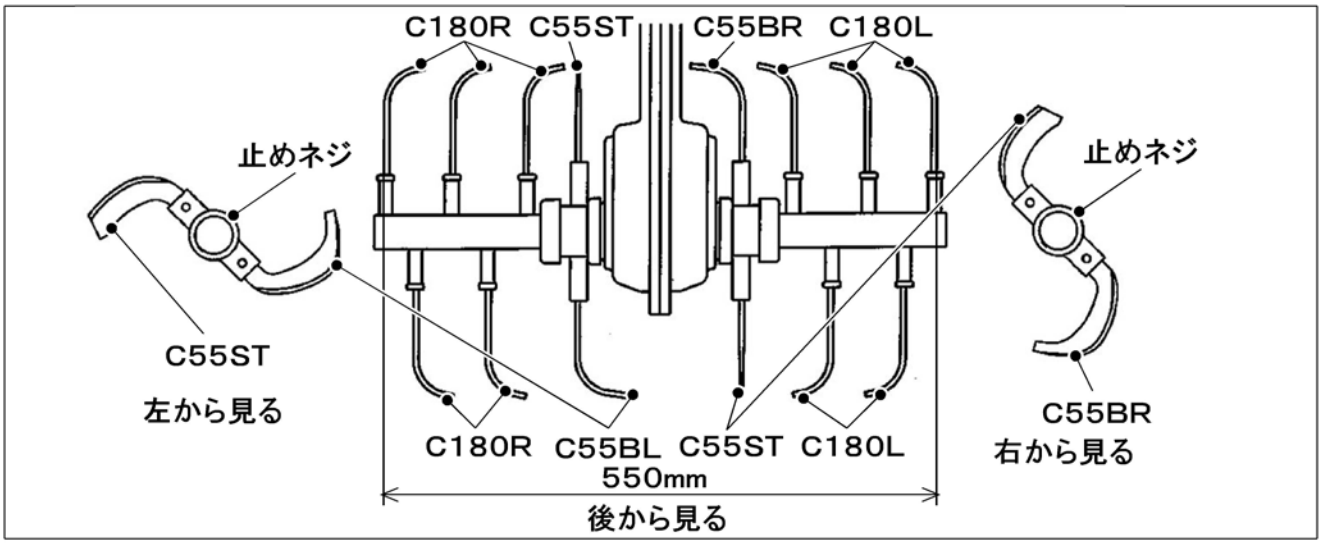
爪の組み替えや交換をするときは、爪の向きを間違えないように、下図のように組んでください。



補 足

- 爪の摩耗量が約半分を越えたら交換時期です。効率の良い作業をしていただくために、早めにお取り換えください。
- 爪の交換は純正の耕うん爪を使用してください。（☞ 54ページ）

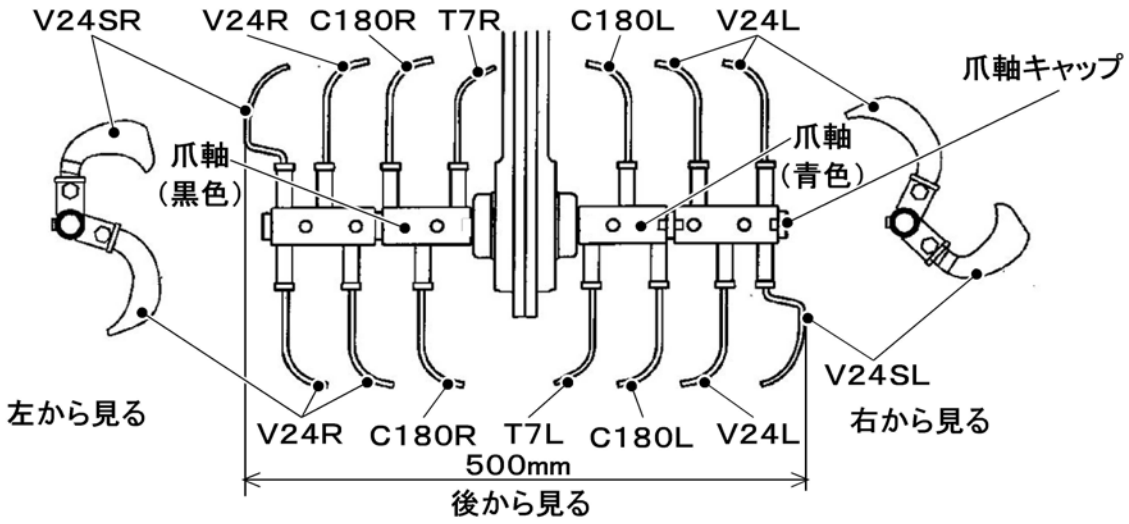
■ KCR659-HX



■ SDUB･SDU型

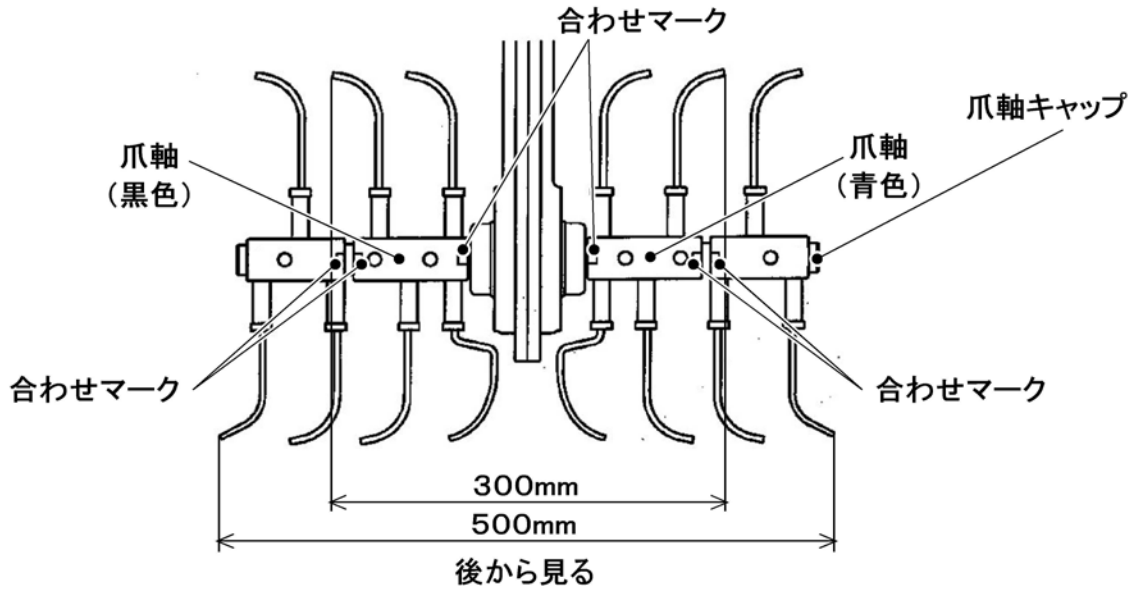
「耕うん」と「うね立」の爪の向きを替えるときは、爪を外さないで、爪軸を内外入れ替えてください。

(1) 耕うん



※一番内側の爪（T7L、T7R）が反対になるように爪軸を取り付けてください。

(2) うね立

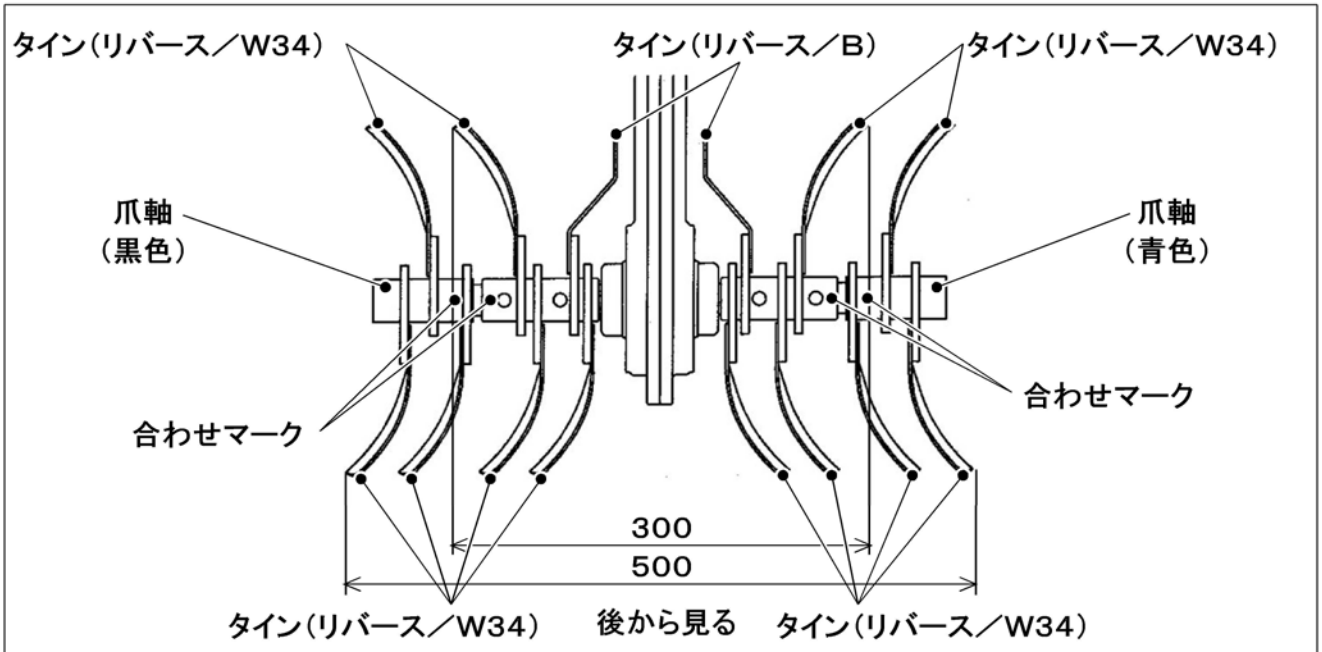


※合わせマークが同じ方向を向くように取り付けてください。

補 足

- 土が侵入するのを防止するため、爪軸を入れ替えたときは、爪軸キャップを忘れずに取り付けてください。

■ SDUH型



※合わせマークが同じ方向を向くように取り付けてください。

7.11　残耕処理板の交換（SDUB･SDU･SDUH型）

⚠ 警告

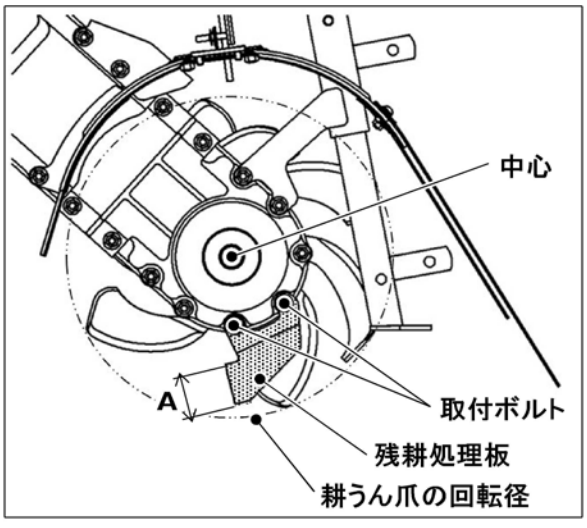
残耕処理板は消耗品です。運転前には必ず作業前点検を行ってください。

※　摩耗したままの残耕処理板の使用を続けると、機体の前方への飛び出しの防止効果が低下し、衝突、転落等の思わぬ事故につながるおそれがあります。

残耕処理板は、必ず取り付けて作業してください。

※　守らないと、耕うん時に機体が前方へ飛び出すおそれがあります。

残耕処理板が、耕うん爪の回転径よりも、大きく中心方向に摩耗していたら交換時期です。
（目安：右図のＡの長さ３０mm以下）



1　取付ボルトを外して、残耕処理板を外します。

2　新しい残耕処理板を、同じ位置に同じ向きで取り付けてください。

補 足

- 新しい残耕処理板の取り付け位置や向きを誤ると、機体の前方への飛び出し防止の効果が得られないので、よく確認してから取り付けてください。

8. 格納時の手入れ

注 意

洗車をするときは、電装品、給油口、エアクリーナ、警告ラベル等には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、警告ラベルのはがれを起こしたりします。

8.1 日常の格納

日常の格納および短期間の格納をする前に、下記の作業を行ってください。

⑴ 耕うん機はきれいに清掃してください。

⑵ 燃料コックのレバーを停止位置「C」位置にし、機体をできる限り水平にしてください。

⑶ 格納はできる限り屋内にしてください。

8.2 長期の格納

⚠ 危 険

燃料は必ず抜き取ってください。

１か月以上使用しない場合は、燃料を完全に抜き取ってください。

※ 放置すると、燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となるおそれがあり、大変危険です。

耕うん機を長い間使用しない場合は、格納する前に、下記の作業を行ってください。

⑴ エアクリーナの吸気口から水が入らないよう注意しながら水洗いをして、きれいに清掃してください。

⑵ 不具合箇所は整備しておいてください。

⑶ ５分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、エンジン各部にオイルをゆきわたらせてください。

⑷ 各部の注油を必ず行ってください。（☞ 41ページ）

⑸ 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。

⑹ 燃料をタンクおよびキャブレタから抜いてください。（☞ 44ページ）

⑺ エンジンのスタータノブをゆっくり引いて、重さを感じる位置でノブを戻してください。

⑻ 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがなく、雨のかからない乾燥した場所を選定し、エンジンが完全に冷えてからシートをかけるようにしてください。

8.3 長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

⑴ 作業前点検を確実に行ってください。（☞ 23ページ）

⑵ エンジンの寿命、性能を保つため、エンジンの始動後は、アイドリング回転で5分ほど運転してください。

9. 不調時の処置

9.1 不調時の処置

現象	原因	処置	参照ページ
エンジンがかからない。	● 燃料がなくなっていませんか。	ガソリンを補給してください。	26
	● 燃料が古くなっていませんか。	新しいガソリンに交換してください。	26 , 44
	● エンジンの始動手順がまちがっていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	27
	● 燃料コックが停止位置「C」になっていませか。	燃料コックを運転位置「O」にしてください。	16
	● 燃料コックのフィルタにゴミが付いていませんか。	燃料コックのフィルタを外して清掃してください。	44
	● 燃料に水が入っていませんか。	燃料コックのフィルタポットに水がたまっていれば、フィルタポットを外して水を抜いてください。	44
	● 点火プラグが悪くなっていませんか。	点火プラグを外し、乾いた布で拭くか、プラグ用のブラシで清掃して汚れを落とし、点火プラグの電極スキマを0.6～0.7mmに調整してください。 それでもかからない場合は、新しい点火プラグと交換してください。	45
エンジンの力がない。	● エアクリーナにゴミがつまっていませんか。	エレメントを取り外し、きれいに掃除するか、新しいエレメントと交換してください。	43
	● エンジンオイルが減っていませんか。	エンジンオイルを補給してください。 エンジンオイルが古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	24 42
	● ベルトが張りすぎていませんか。	ベルトの張りを調節する必要があるので「お買いあげ先」で調節してください。	－
	● エンジンの回転は上がりますか。	アクセルケーブルの取り付け位置が動いていたら、「お買いあげ先」で調節してください。	－
	● スタータノブを引いたときエンジンの圧縮が感じられますか。	点火プラグを締め付けてください。 ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、「お買いあげ先」で修理してください。	45 －
エンジンが自然にとまる。	● 燃料がなくなっていませんか。	ガソリンを補給してください。	26
	● 燃料が古くなっていませんか。	新しいガソリンに交換してください。	26 , 44

現　象	原　　因	処　　置	参照ページ
エンジンが自然にとまる。	● 燃料コックが停止位置「C」になっていませんか。	燃料コックを運転位置「O」にしてください。	16
	● 燃料コックのフィルタにゴミが付いていませんか。	燃料コックのフィルタを外して清掃してください。	44
	● エアクリーナにゴミがつまっていませんか。	エレメントを取り外し、きれいに掃除するか、新しいエレメントと交換してください。	43
	● エンジンオイルが減っていませんか。	エンジンオイルを補給してください。 エンジンオイルが古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	24 42
	● スタータノブを引いたときエンジンは回りますか。	回らなかったり重い場合には、「お買いあげ先」で修理してください。	―
	● リコイルスタータにワラなどがつまっていませんか 。	リコイルスタータを清掃してください。	15
	● 耕うん爪に草やワラが巻き付いたり、カバーに土がつまっていませんか。	草やワラや土を取り除いてください。	―
エンジンがとまらない。	● 電気配線の切れや外れがありませんか。	燃料コックを停止位置「C]にしてエンジンがとまるのを待ち、「お買いあげ先」で修理してください。	16 , 54
振動が多い。	● エンジンが振れていませんか。	エンジンの取り付けを「お買いあげ先」で調節してください。	―
	● ハンドルが振れていませんか。	強く振れているときは、「お買いあげ先」で修理してください。	―
主クラッチレバーを「入」にしても発進しない。	● ベルトが伸びてスリップしていませんか。	ベルトの張りを調節する必要があるので「お買いあげ先」で調節してください。	―
デフ切替レバーを「デフ固定／直進」位置にしても片輪がスリップする。	● ケーブルが伸びていませんか。	ケーブルの張りを調節する必要があるので「お買いあげ先」で調節してください。	―
デフ切替レバーを「デフ固定／直進」位置にしても耕うん爪が回らない。(ロータリクラッチ連動時)	● ケーブルが伸びていませんか。	ケーブルの張りを調節する必要があるので「お買いあげ先」で調節してください。	―
ロータリクラッチをデフ切替レバーとの連動解除するとき、ロータリクラッチ切替アームの穴と固定穴が合わずピンが通らない。	● ロータリクラッチの爪クラッチがきちんと噛み合っていますか。	変速レバーを「耕うん」位置にし、爪を回して爪クラッチをきちんと噛み合わせ、穴を合わせてからピンを通してください。	20
駐車レバーを入れた状態で主クラッチレバーが重くて握れない。（駐車レバーが解除できない）	● タイヤをロックしている部分が噛み込んでいませんか。	機体を少し前後に動かし、噛み込みを無くしてから、主クラッチレバーを握ってください。	―
耕うん・うね立て作業時異音がする。	● 耕うん爪の取付ボルトがゆるんでいませんか。	取付ボルトを締め直してください。	―

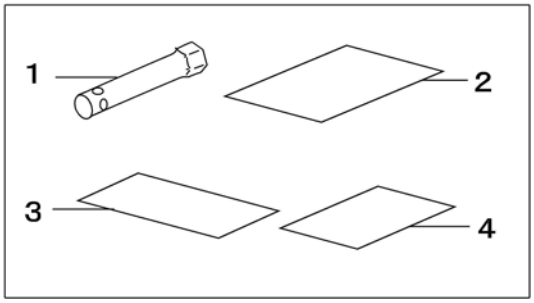
※不調時はむやみに分解しないで、はやめにお買いあげ先にご相談ください。

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表

区　分	メーカ名	商品名・規格	納車時充填油
エンジンオイル	・井関農機	ヰセキ・スーパーマルチエンジンオイル 〔20L缶:品番 7019-009-300-00 4L缶:品番 7019-009-400-10〕	○
	・他有名メーカのSF級以上	粘度10W-30	
ミッションオイル	・井関農機	ヰセキ・マルチDX ギヤーオイル(#80) 〔20L缶:品番 7019-004-300-00 4L缶:品番 7019-004-400-10〕	○
	・他有名メーカ	#80相当品	
一般グリース	・協同油脂	ユニルーフ No.2	○
	・他有名メーカ	リチューム系一般グリース	
燃料	・有名メーカ品	自動車用無鉛ガソリン	○

10.2 標準付属品



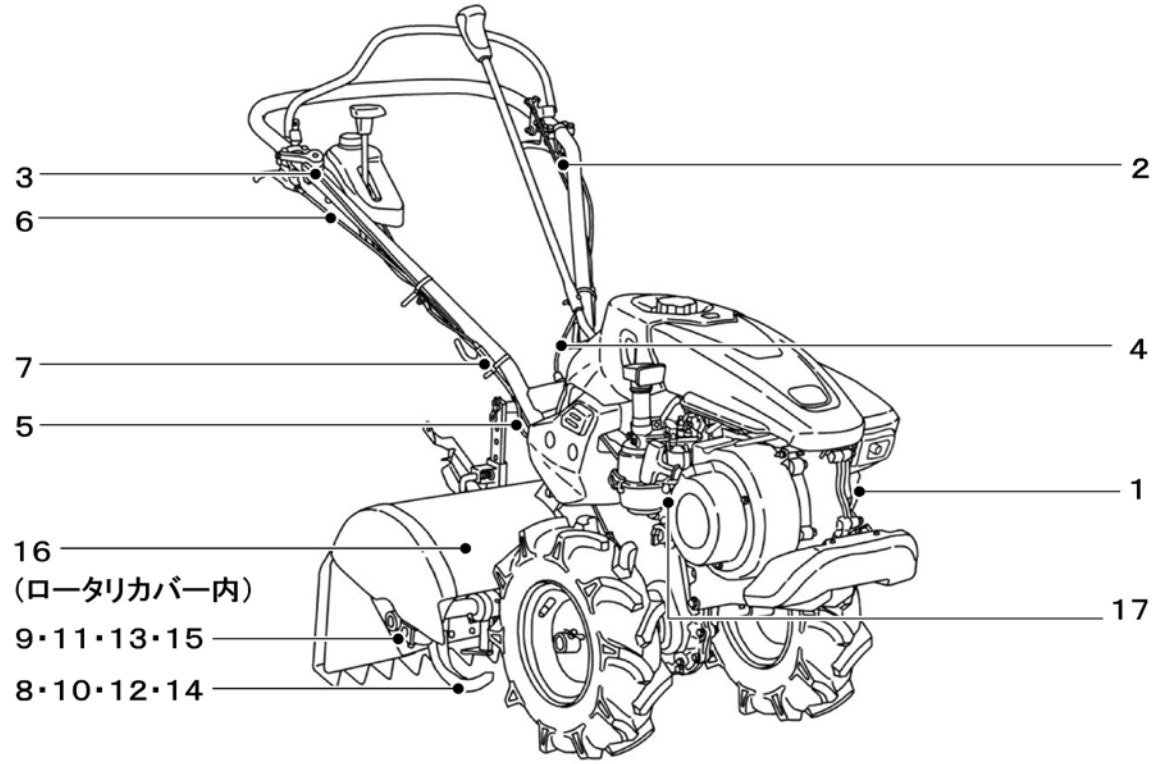
番号	品　名	個数	適用区分
1	プラグレンチ	1	
2	取扱説明書	1	
3	保証書	1	
4	組立要領	1	

10.3　主要諸元表

名称		KCR659				
型式名		ヰセキ　K061				
区分		HX	SDUB	SDU	SDUH	
機体寸法	全長 (mm)	1470		1440		
	全幅 (mm)	600	580			
	全高 (mm)	1130		1150		
装備重量 (kg)		101	95	93		
エンジン	型式名	GB181LN				
	種類	空冷4サイクル1気筒OHVガソリン				
	総排気量 (L)	0.181				
	出力/回転速度 (Kw{PS}/rpm)	定格3.4{4.7}/1800 （最大4.6{6.3}）				
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン				
	燃料タンク容量 (L)	2.2				
	始動方式	リコイルスタータ式				
	エアクリーナ	オイルバス式				
	点火プラグ	NGK-BP6HS				
走行部	車輪〔タイヤ〕	4.00-7		3.50-7		
	輪距 (mm)	300 , 400	200 , 300 , 400			
	クラッチ形式	ベルトテンション（デッドマン）				
	操向方式	ロック付デファレンシャル式				
	走行変速段数 (段)	前進3・後進1		前進2・後進1		
	走行速度 (km/h) 〔エンジン定格回転速度時〕	前進0.9 , 1.5 , 4.7 後進1.1		前進0.8 , 4.0 後進0.9		
	車軸の形状･寸法 (mm)	丸軸25・長さ169				
	ハンドル調節	上下4段（手元ワンタッチ）				
ロータリ	駆動方式	センタドライブ				
	変速段数 (段)	一軸正逆転1	正転1 逆転1			
	耕幅 (mm)	550	500・300			
	耕うん軸回転速度 (rpm) 〔エンジン定格回転速度時〕	241	正転241 逆転324			

● この主要諸元は、改良のため予告なく変更する場合があります。

10.4　主な消耗部品一覧表



番号	品　　名	品　　番	個数	適 用 区 分（備 考）
1	ベルト(VB035)	1149-201-002-10	1	
2	ケーブル(クラッチ/7)	1161-401-011-00	1	
3	ケーブル(アクセル)　ASSY	1112-402-220-00	1	
4	ケーブル(シフト/ハンドル/7)	1161-404-011-00	1	
5	ケーブル(ロック/デフ)	1149-406-005-10	1	
6	ケーブル(ブレーキ)	1161-412-003-00	1	
7	ハーネス(スイツチ)	1149-621-001-00	1	（電気配線）
10	ナタバ(HX/6)　SET	1138-720-230-10	1	HX型
11	ボルト(M10X23)　SET	1105-718-220-10	14	
12	ナタバ(70U)　SET	1138-720-290-10	1	SDUB･SDU型
13	ボルト(M10X23)　SET	1105-718-220-10	14	
14	タイン(リバース/UH)　SET	1161-720-250-00	1	SDUH型
15	ボルト(M8X20)　SET	1137-719-290-00	28	
16	レジスタ	1152-216-003-00	1	SDUB･SDU･SDUH型 (残耕処理板)
17	燃料ホース類	—	—	(2年ごとに交換)

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

取扱い方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、お買いあげ先へご相談ください。

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

購入先名	担当者名	電話 （　　）　　－
御購入日 年　月　日	型式	区分
車体番号（本機番号）	機関番号	同時購入作業機

人と大地のハーモニー ISEKI

井関農機株式会社

ISEKI & CO., LTD.

営業本部 技術サービス部	〒300-2346	茨城県つくばみらい市青木560	☎ 0297-58-1979
部品事業部	〒799-2692	愛媛県松山市馬木町700	☎ 089-979-4114

販売会社

㈱ヰセキ北海道	〒068-0014	北海道岩見沢市東町2条7丁目1004番地1	☎ 0126-22-3388
㈱ヰセキ東北	〒989-2421	宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2	☎ 0223-24-1111
㈱ヰセキ関東甲信越	〒300-0331	茨城県稲敷郡阿見町大字阿見4818	☎ 029-887-6131
群馬ヰセキ販売㈱	〒379-2154	群馬県前橋市天川大島町116	☎ 027-263-3211
㈱石川商会	〒289-2516	千葉県旭市ロ-1247	☎ 0479-63-3115
㈱ヰセキ関西中部	〒444-1221	愛知県安城市和泉町大北61	☎ 0566-92-7221
三重ヰセキ販売㈱	〒514-0821	三重県津市垂水字中境499番地	☎ 059-225-2811
奈良ヰセキ販売㈱	〒635-0014	奈良県大和高田市三和町17-29	☎ 0745-22-8771
㈱ヰセキ中四国	〒739-0024	広島県東広島市西条町御薗宇727番地2	☎ 082-423-9881
㈱西岡商会	〒773-0016	徳島県小松島市中郷町前田105-1	☎ 0885-32-3339
㈱ヰセキ九州	〒861-2212	熊本県上益城郡益城町平田深迫2550	☎ 096-286-0303

LEMA

陸内協排ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

再生紙を使用しています

VEGETABLE OIL INK

1163-990-001-0A